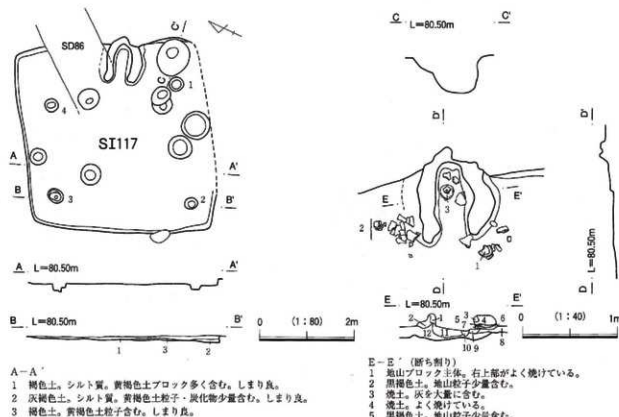
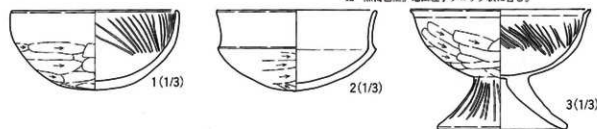


9区西117号住居

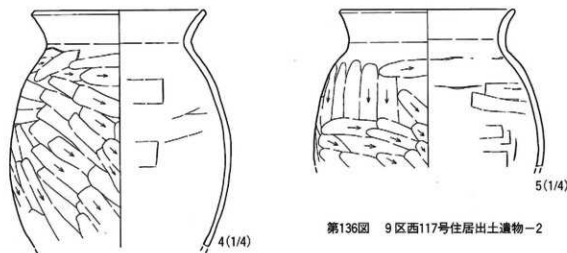
位置 9区西 規模形状 4.00m×4.00mと正方形を呈する。残存壁高は0.10mを測る。主軸方位 東-19°-北 重複 116号住居を掘り込む。86号溝に壊される。床面 は平坦であり、貼床が認められる。カマド 北壁中央部やや東側に位置する。奥行0.90m、焚き口幅0.30mを測る。袖は住居内に張り出す。燃焼部の多くは住居壁の内側に造られ、一部外側に地山を削り出して造られている。燃焼面は床面とはほぼ同じレベルであった。カマド中央には、№3の高炉が伏せられた状態であった。支脚の可能性が高い。柱穴 主柱穴を4基検出している。柱穴1 径0.30m深さ0.11m 柱穴2 長軸0.28m短軸0.24m深さ0.11m 柱穴3 長軸0.34m短軸0.27m深さ0.15m 柱穴4 長軸0.30m短軸0.28m深さ0.18m 柱穴間寸法は、柱穴1～2は2.50m、柱穴2～3は2.88m、柱穴3～4は1.95m、柱穴4～1は2.68mである。貯蔵穴 北東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.68m、深さ0.41mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・杯・高杯 所見 5世紀末 備考 内湾口縁の杯、須恵器蓋模倣の杯、内斜口縁杯に脚をつけた高杯が出土している。



第134図 9区西117号住居・カマド



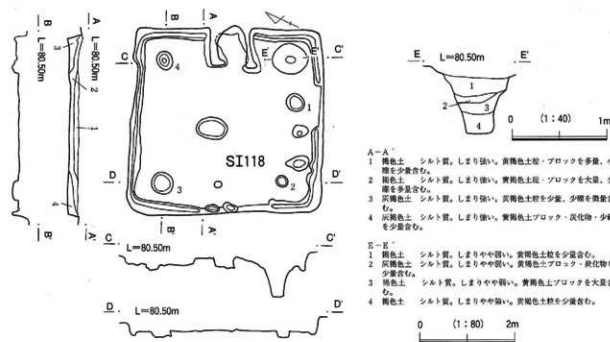
第135図 9区西117号住居出土遺物-1



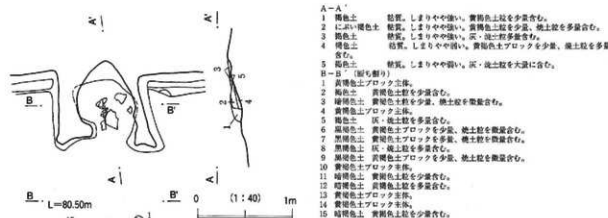
第136図 9区西117号住居出土遺物-2

9区西118号住居

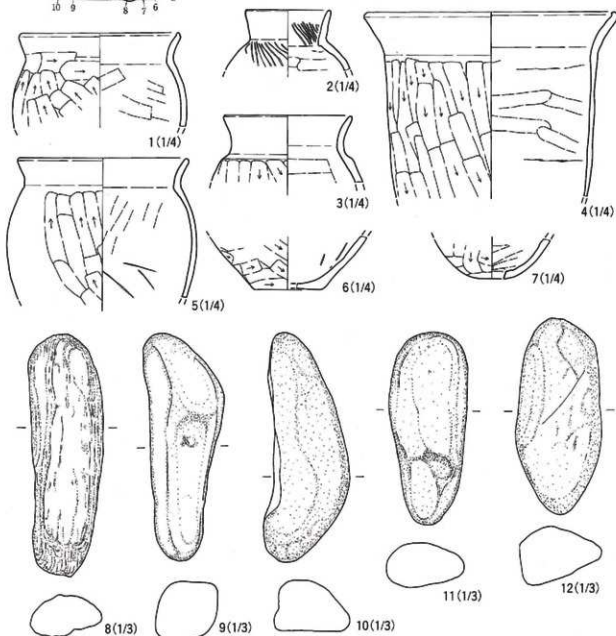
位置 9区西 規模形状 長辺4.10m、短辺4.00mの規模で正方形プランを呈する。残存壁高0.20mを測る。主軸方位 北-44°-東 重複 なし 床面 は平坦である。カマド 東壁のほぼ中央に位置する。奥行0.95m、焚き口幅0.45mを測る。燃焼面は床面より0.12m程掘り窪んでいた。燃焼部はよく焼けており、多量の灰がカマド前から横にかけてかき出されていた。カマド中央に長さ18cmの石が底に埋め込まれた状態で立っている。石製の支脚と考えられる。柱穴 主柱穴4基と3基の柱穴を検出している。柱穴1 長軸0.38m、短軸0.34m、深さ0.23m 柱穴2 径0.22m、深さ0.12m 柱穴3 径0.44m、深さ0.12m 柱穴4 長軸0.38m、短軸0.30m、深さ0.79m柱穴間寸法は、柱穴1～2は1.70m、柱穴2～3は2.50m、柱穴3～4は2.62m、柱穴4～1は2.90mである。貯蔵穴 カマド右端に位置する。楕円形を呈し、長軸0.73m、短軸0.63m、深さ0.70mを測る。その他付属施設 カマド部分を除く壁際に壁周溝が巡っている。幅0.20m前後、深さ0.05m前後である。遺物 土師器甕・杯・板・壺、麻石 所見 5世紀末 備考 土師器杯の中に須恵器蓋模倣杯がある。



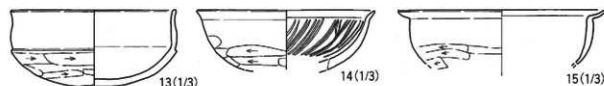
第137図 9区西118号住居



第138図 9区西118号住居カマド



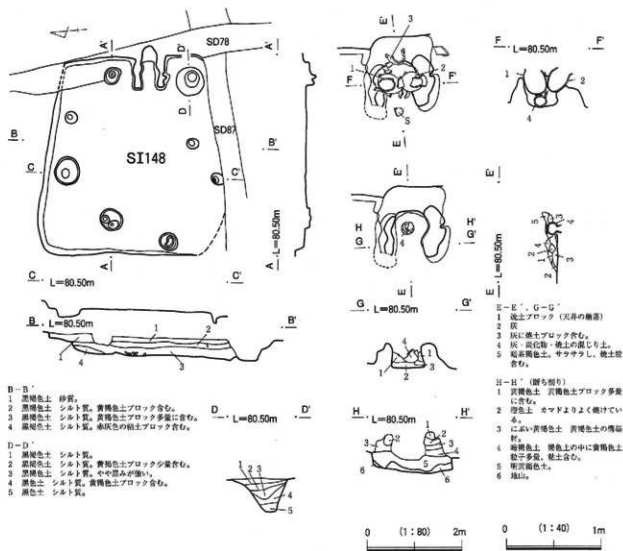
第139図 9区西118号住居出土遺物-1



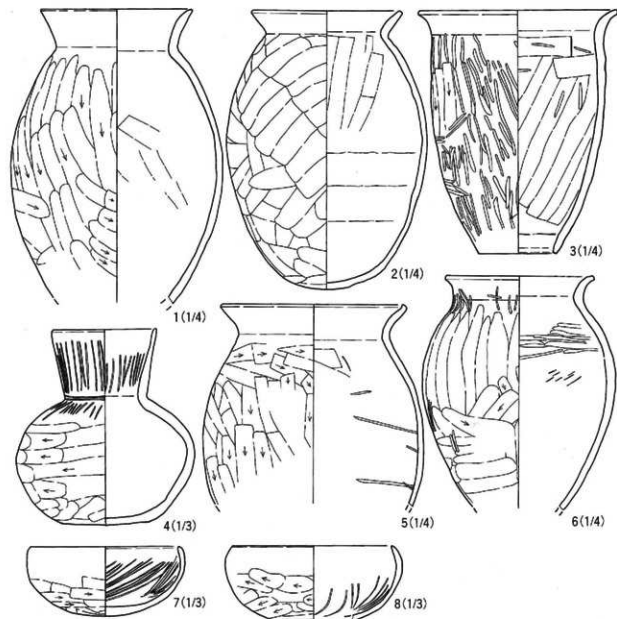
第140図 9区西118号住居出土遺物-2

9区西148号住居

位置 9区西 規模形状 方形を呈し、長辺4.20m+a、短辺3.90m、残存壁高0.34mを測る。主軸方位 東-2°-南 重複 147・180号住居を掘り込む。78・87号溝に壊される。床面 は平坦である。カマド 東壁中央やや南側に位置する。煙道部は0.20mほど残っていたが、その先は削平されていた。奥行0.60m、焚き口幅0.28mを測る。燃焼面は住居床面より若干低く、焼土粒を含んだ灰層が検出された。燃焼部中央の奥寄りに塔（4）が逆さの状態で出土した。口縁部は少し埋め込んで固定であった。土師器の甕2個体（1・2）がカマドに据えられた状態で出土した。西の壁は支脚の上になっていた。また、煙道部には倒れかけた土師器甕1個体が出土した。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅に位置する。円形を呈し、長軸0.60m、短軸0.57m、深さ0.43mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・甕・塔 所見 5世紀末



第141図 9区西148号住居・カマド



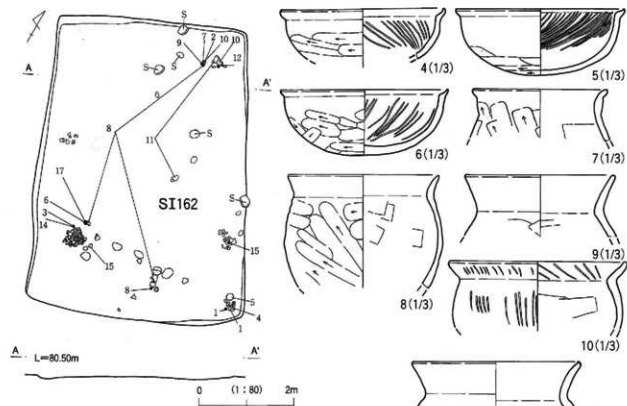
第142図 9区西148号住居出土遺物

9区西162号住居

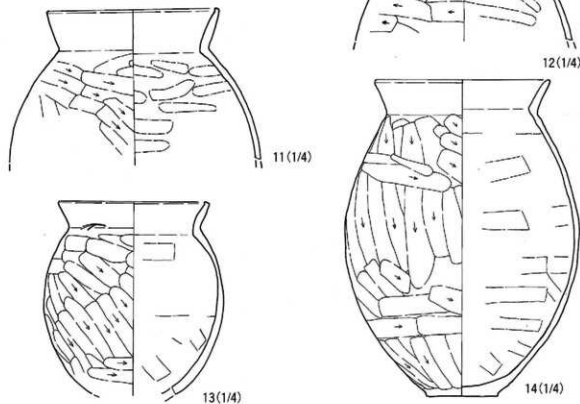
位置 9区西 規模形状 長方形を呈し、長辺6.30m、短辺4.50m、残存壁高0.22mを測る。主軸方位 北-28°-西 重複 77・78号溝に壊される。床面 平坦面を形成している。炉 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器・甕・高坏、石製模造品・刺形 所見 5世紀後半 備考 住居南部分の覆土中から多数の川原石が出土している。



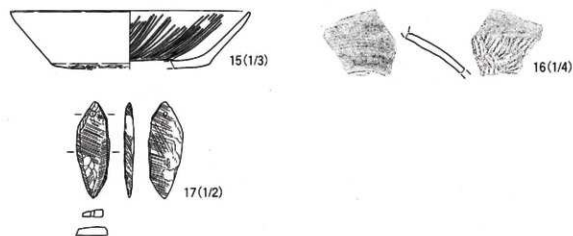
第143図 9区西162号住居出土遺物-1



第144図 9区西162号住居



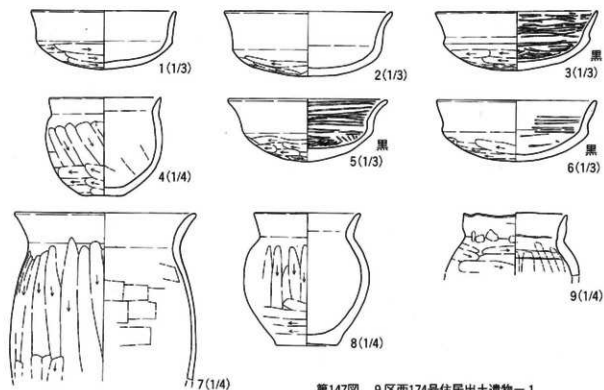
第145図 9区西162号住居出土遺物-2



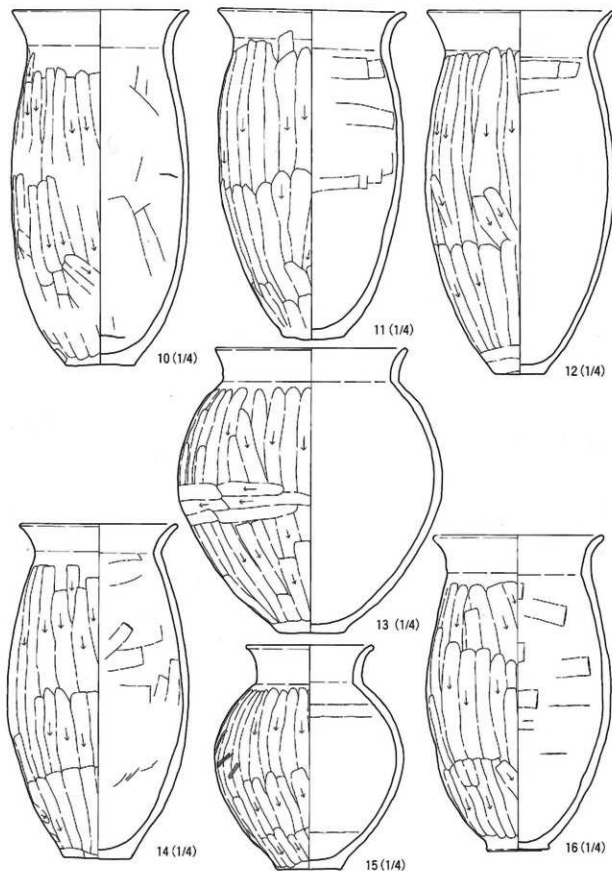
第146図 9区西162号住居出土遺物-3

9区西174号住居

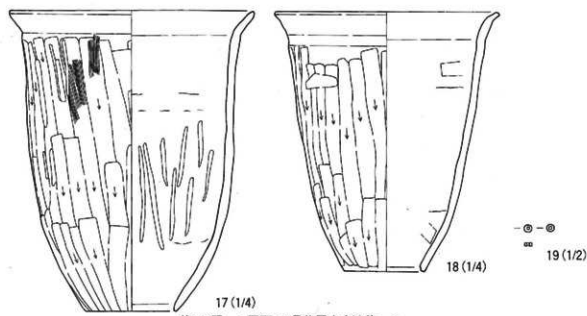
位置 9区西 規模形状 78・79号溝・309土坑に壊される。長辺6.00m、短辺4.80m（推定）、残存壁高0.20mを測る。長方形プランと推定される。主軸方位 北-36° 西 重埋 162号住居が埋まった後に造られている。78・79号溝に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 北壁中央やや西側に位置する。左袖は309号土坑に壊されていた。奥行1.10m、焚き口幅0.32mを測る。カマドは黒褐色土を含むやや粘性の強いにぶい黄褐色土で構築される。袖を断ち割ると粘土とともに土器が検出された。土器を袖の補強材にしたと考えられる。燃焼面は床面とはほぼ同じレベルである。焚き口前には、カマドからかき出されたと思われる多量の灰があった。燃焼部内、焚き口前から土師器破片が少量出土した。柱穴 不明 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.60m、深さ0.20mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・甗、石製模造品白玉 所見 6世紀前半



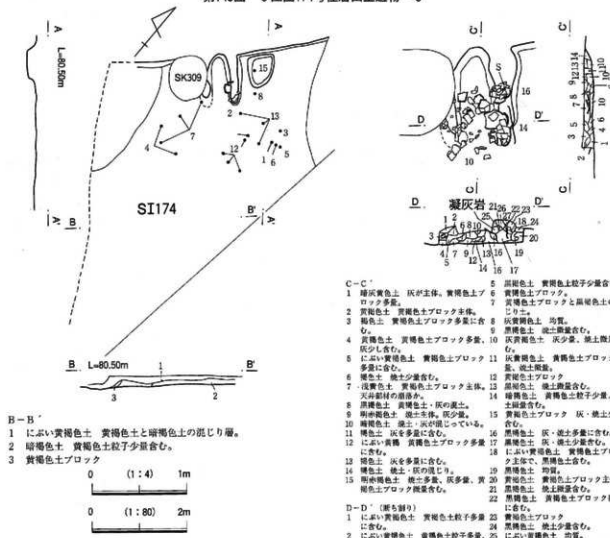
第147図 9区西174号住居出土遺物-1



第148図 9区西174号住居出土遺物-2



第149図 9区西174号住居出土遺物-3

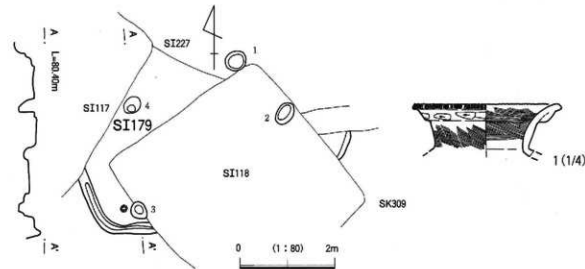


第150図 9区西174号住居・カマド

- C-C' (断面図)
- 1 黄褐色土、灰が主体。黄褐色土に灰土少量含む。
 - 2 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 3 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 4 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 5 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 6 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 7 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 8 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 9 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 10 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 11 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 12 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 13 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 14 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 15 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
- D-D' (断面図)
- 1 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 2 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 3 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 4 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 5 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 6 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 7 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 8 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 9 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 10 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 11 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 12 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 13 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 14 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。
 - 15 黄褐色土、灰土多量。灰土多量。

9区西179号住居

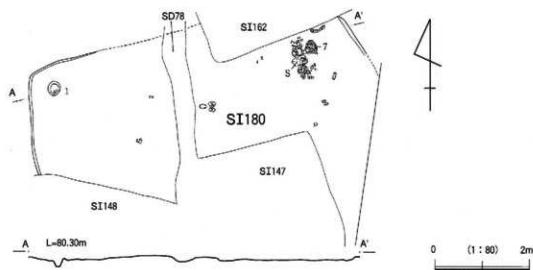
位置 9区西 規模形状 重複が激しい住居である。規模、形状は不明である。残存壁高は0.10mを測る。主軸方位 不明 重複 117号・118号・227号・228号住居に壊される。床面 やや凹凸がみられる。炉 不明 柱穴 4基検出している。柱穴1 径0.44m深さ0.15m 柱穴2 長軸0.50m短軸0.45m深さ0.13m 柱穴3 長軸0.38m短軸0.30m深さ0.36m 柱穴4 長軸0.34m短軸0.30m深さ0.35m柱穴間寸法は、柱穴1～2は1.50m、柱穴2～3は3.60m、柱穴3～4は2.12m、柱穴4～1は2.40mである。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・壺 所見 古墳前期



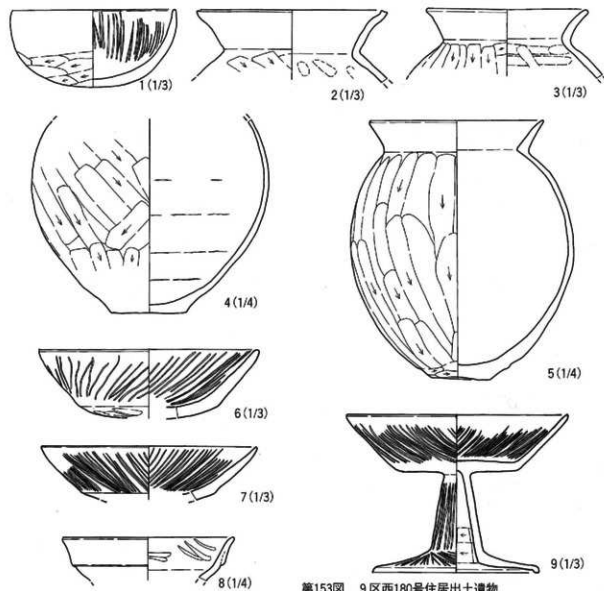
第151図 9区西179号住居・出土遺物

9区西180号住居

位置 9区西 規模形状 重複が激しく残りの悪い住居であった。長辺7.10m、短辺2.00m+α、残存壁高0.08mを測る。形状は方形と推定される。主軸方位 北-18°-西 重複 147号・148号・162号住居、78号溝に壊される。床面 平坦面を形成しているが、やや凹凸がみられる。炉 不明 柱穴 1基検出している。柱穴1 長軸0.32m短軸0.26m深さ0.08m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・壺、高坏 所見 5世紀後半



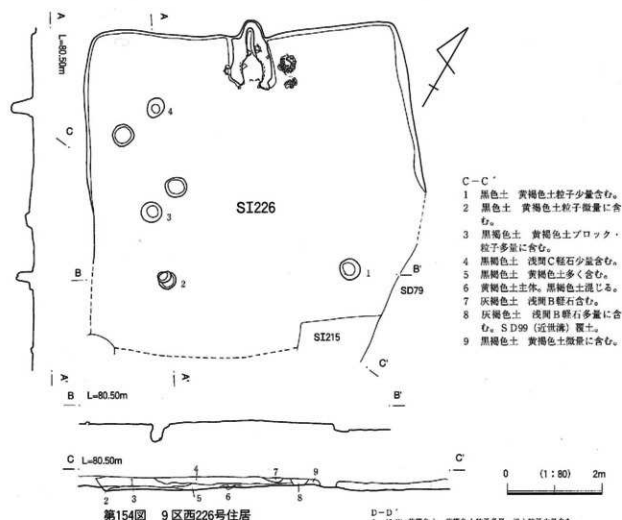
第152図 9区西180号住居遺物出土状況



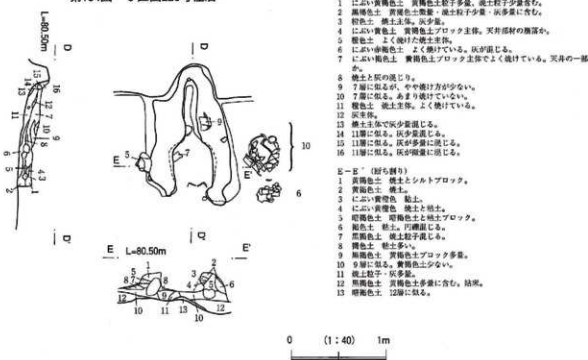
第153図 9区西180号住居出土遺物

9区西226号住居

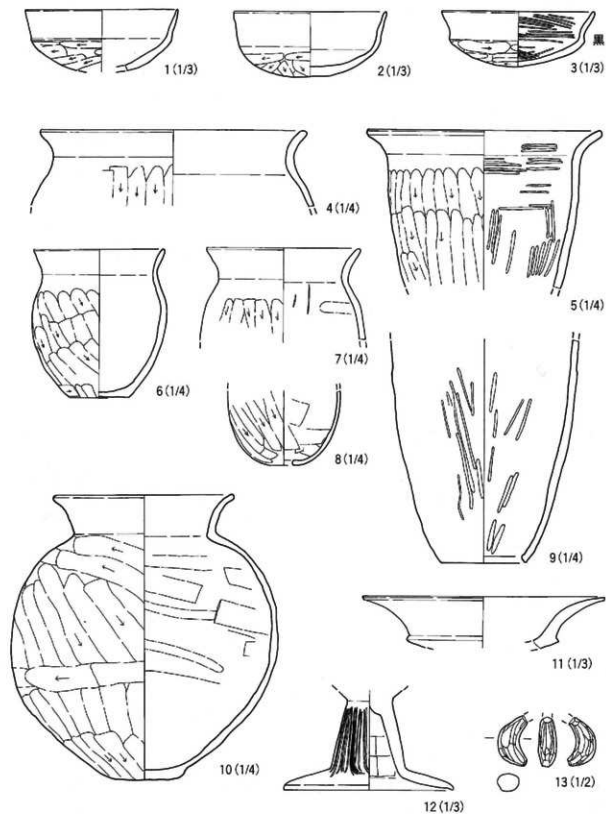
位置 9区西 規模形状 長辺7.00m、短辺6.80m+αと方形を呈する。残存壁高は0.25mである。主軸方位北-44°-西 重複 127号・184号・213号・214号・227号住居を掘り込む。215号住居、79号溝に横される。床面 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混土で部分的に貼床としている。カマド 北壁中央部に位置する。奥行0.70m、焚き口幅0.44m、煙道部長0.60mを測る。両軸の先端部は軸石として凝灰岩が使われている。また、焚き口付近には、天井石に使用されたとみられる凝灰岩が崩落していた。燃焼部、煙道部の内壁はよく焼け焼土化していた。燃焼部内には、支脚と見られる川原石があった。煙道部はほぼ水平に延びて、垂直に近い角度で立ち上がっていた。カマド右脇から土師器杯の破片と潰れた状態の甕が一個体出土した。柱穴 4基検出している。しかし、北東部の柱穴は確認できなかった。柱穴1 径0.44m深さ0.17m 柱穴2 長軸0.38m短軸0.36m深さ0.36m 柱穴3 径0.44m深さ0.35m 柱穴4 長軸0.42m短軸0.34m深さ0.46m柱穴間寸法は、柱穴1~2は3.95m、柱穴2~3は1.40m、柱穴3~4は2.14mである。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・杯・高杯・甕、滑石製勾玉(13) 所見 6世紀前半



第154図 9区西226号住居



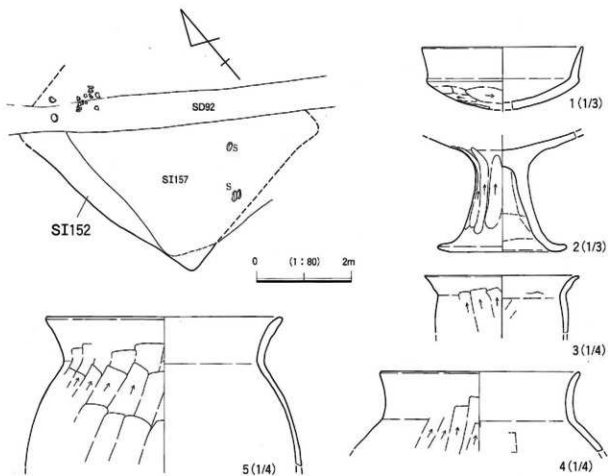
第155図 9区西226号住居カマド



第156図 9区西226号住居出土遺物

9区東152号住居

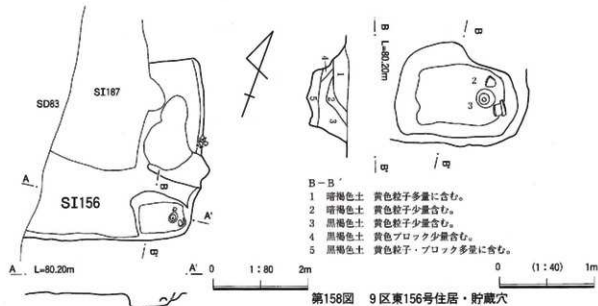
位置 9区東 規模形状 重複により住居の残りは悪いが、形状は方形と推定される。長辺4.80m+a、短辺0.80m+aの規模である。残存壁高は不明である。主軸方位 北-45°-東 重複 157号住居を掘り込み、92号溝に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 東部分にかなりピットがあり、壊されている可能性が高い。柱穴 ピットはあるが、主柱穴を特定できない。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器 甕・坏・高坏 所見 6世紀前半 備考 坏は須恵器蓋復做坏である。



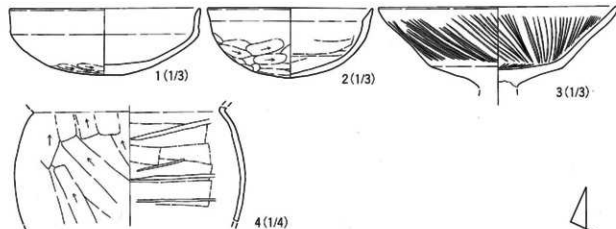
第157図 9区東152号住居・出土遺物

9区東156号住居

位置 9区東 規模形状 重複により住居の残りは悪いが、形状は方形と推定される。長辺3.75m、短辺3.50+a、残存壁高0.13mを測る。主軸方位 東-15°-北 重複 187号住居、83号溝に壊される。床面 やや凹凸があるものの、ほぼ平坦である。カマド 東壁中央やや南側に位置する。かなり削平され、燃焼面の一部が残るのみであった。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅に位置する。隅丸方形で、長軸1.20m、短軸1.05m、深さ0.32mを測る。貯蔵穴内から、土師器の甕・坏・高坏が出土している。その他付属施設 なし 遺物 土師器 甕・坏・高坏 所見 5世紀後半 備考 坏部の内外に暗文をもつ高坏が出土している。内斜口縁の坏もあるが、内面の暗文はない。



第158図 9区東156号住居・貯蔵穴



第159図 9区東156号住居出土遺物

9区東157号住居

位置 9区東 規模形状 長辺5.00m、短辺3.40m + α の規模であるが、形状は不明。残存壁高は0.10mである。主軸方位 東-15° 北 重複152号住居を掘り込み、92号溝に壊される。床面 平坦面を形成している。カマド 不明 柱穴 主柱穴は2基あると考えられるが断定はできない。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏、須恵器甕、緑色の珪質頁岩製平玉 所見 5世紀末。備考 坏は、内側口縁と内斜口縁の坏がなく、須恵器甕模倣坏のみである。口縁と底部の境に稜のあるものと、無いものとがある。須恵器甕の内面は、同心円叩きの後に半スリケン手法が見られる。なお、甕蓋は住居内部のピットからの出土であり、同時期でない可能性もある。

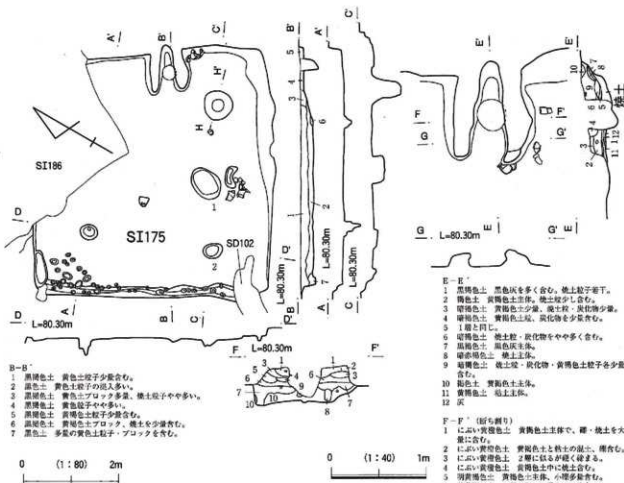
第160図 9区東157号住居



第161図 9区東157号住居出土遺物

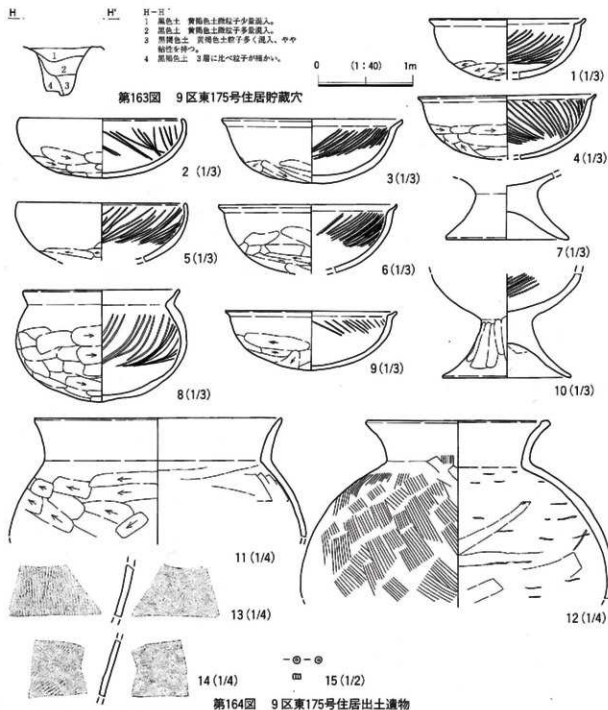
9区東175号住居

位置 9区東 規模形状 ほぼ正方形を呈し、長辺5.21m、短辺5.00m、残存壁高0.24mを測る。主軸方位 東-24° 北 重複 225号住居を掘り込む。186号住居、102号溝に壊される。床面 平坦面を形成している。カマド 東壁中央やや南側に位置する。奥行き1.10m、焚き口幅0.40mを測る。燃焼面は床面とはほぼ同じレベルであった。燃焼部内はあまり焼けていなかったが、燃焼面から焼土粒を含む多量の灰を検出した。燃焼部内、焚き口前から土師器小型甕、右脇から土師器甕・坏・高坏が出土した。柱穴 2基検出している。柱穴1 長軸0.74m短軸0.54深さ0.29m 柱穴2 長軸0.40m短軸0.32m深さ0.12m柱穴間寸法は、柱穴1~2は1.40mである。貯蔵穴 南東隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.80m短軸0.65m、深さ0.54mを測る。その他付属施設 西壁際から壁周溝を検出している。幅0.20前後、深さ0.08m前後である。壁周溝内から多くの小ピットを検出している。遺物 土師器壺・坏・高坏・鉢、須恵器甕、ガラス製小玉(15) 所見 5世紀末。備考 坏は内斜口縁と内穹口縁のそれと、須恵器甕模倣坏はない。高坏は、これらの坏にハの字形に開く小さい脚がついたものである。口縁の大きな土師器壺(11)の存在が特筆される。



第162図 9区東175号住居・カマド

第四章 古墳時代の遺構と遺物



第163図 9区東175号住居貯蔵穴

第164図 9区東175号住居出土遺物

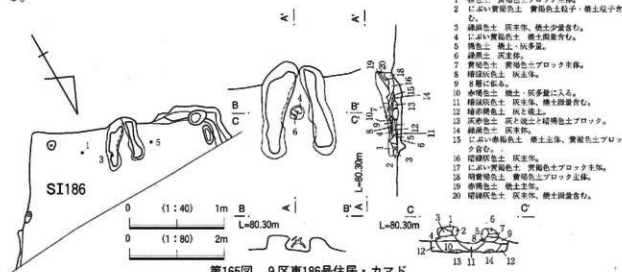
9区東186号住居

位置 9区東 規模形状 住居の半分以上が調査区外であるが、形状は方形と推定される。長辺4.23m、短辺2.90m+α、残存壁高0.28mを測る。主軸方位 南-35°-西 重複 175号住居を掘り込む。床面 は平坦である。カマド 南壁は中央部に位置する。袖、燃焼部の残りは比較的良好であるが、煙道部は削平をうけており残っていない。奥行0.95m、焚き口幅0.30mを測る。粘性の強い黄褐色土で構築される。燃焼面は床面とはほぼ同じレベルであった。燃焼部内はよく焼けており、内壁は焼土化していた。燃焼部は中央には、土師器の高坏が逆さの状態で置かれていた。支脚にしたと考えられる。支脚の強度を増すためか、高坏の坏内には黄褐色と黒色の混じった土がぎっしりと詰まっていた。

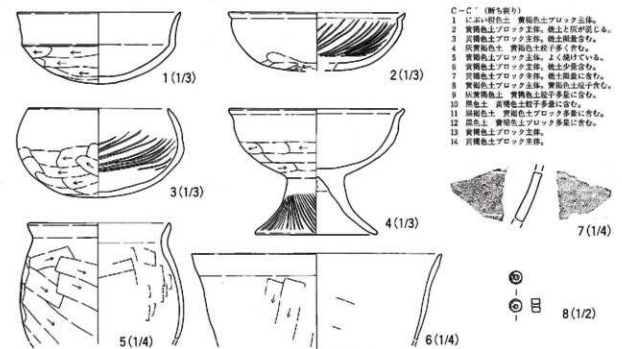
柱穴 西と東のコーナーに主柱穴がある。貯蔵穴 不明 その他付属施設 南西コーナーから壁周溝を検出し

第1節 竈穴住居

ている。幅0.30m弱、深さ0.10m前後である。遺物 土師器甕・坏・高坏、白土、磨石石 所見 5世紀末 備考 土師器は須恵器模倣坏をはじめ、図にはないが内面をヘラミガキし炭素を吸着させた黒色土器もある。



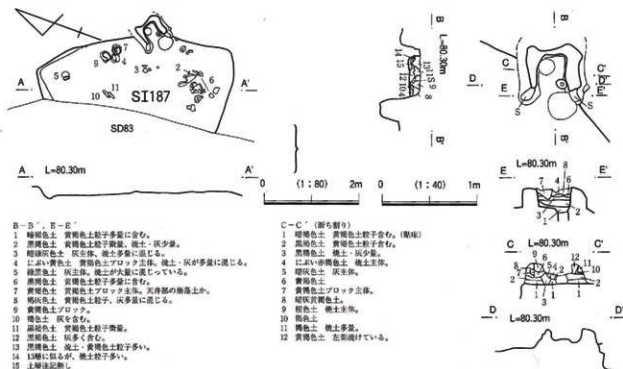
第165図 9区東186号住居・カマド



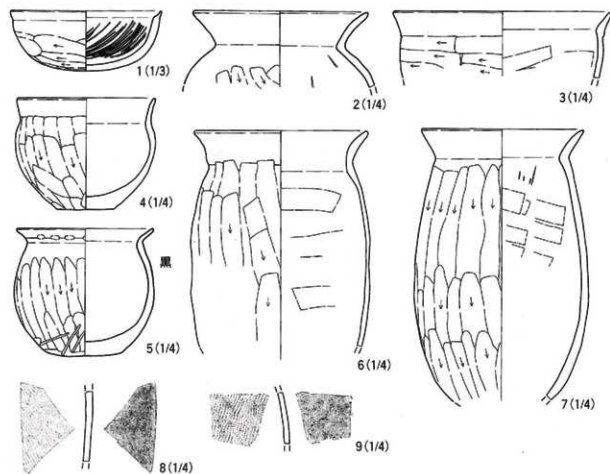
第166図 9区東186号住居出土遺物

9区東187号住居

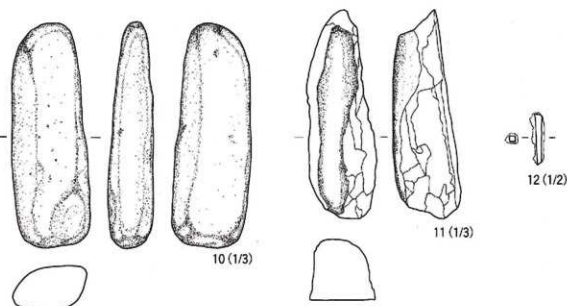
位置 9区東 規模形状 重複が激しく残りが非常に悪い。ほぼ方形を呈し、長辺4.13m、短辺1.75m+α、残存壁高0.26mを測る。主軸方位 東-35°-北 重複 156号・199号・200号住居を掘り込む。83号溝 (中世)に壊される。床面 黒褐色土で厚さ0.08-0.10mの貼床としている。カマド 東壁中央や南側に位置する。奥行0.56m、焚き口幅0.36mを測る。両袖先端部の袖石は凝灰岩でほぼ据えられた状態であった。燃焼部内から砕け落ちた天井石の凝灰岩を検出した。柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 不明 遺物 土師器甕・坏・瓶、須恵器甕、鉄釘 所見 5世紀末 備考 小型化した内傾口縁がある。小型甕は、内面黒色処理した個体がある。甕は長胴化している。



第167図 9区東187号住居遺物出土状況・カマド

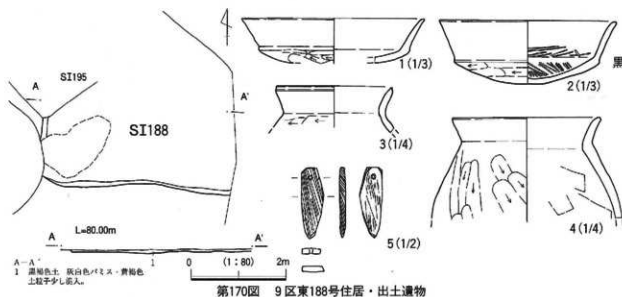


第168図 9区東187号住居出土遺物-1



第169図 9区東187号住居出土遺物-2

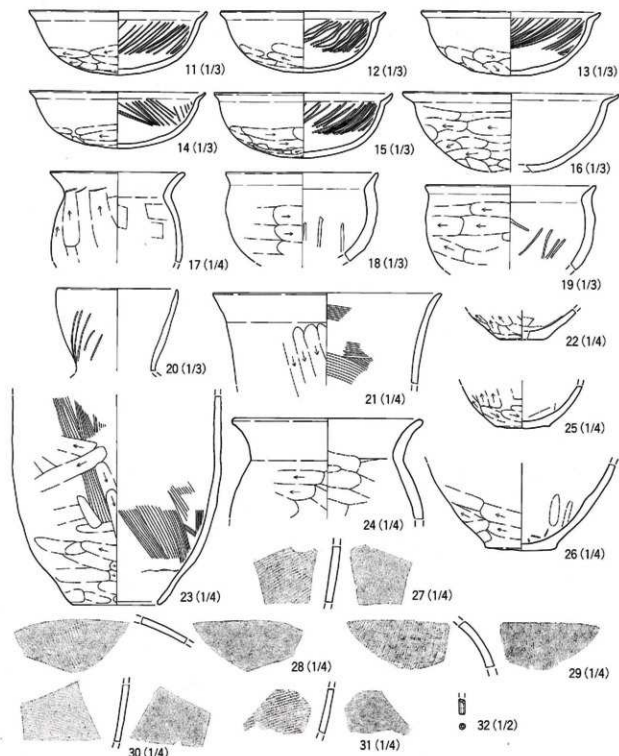
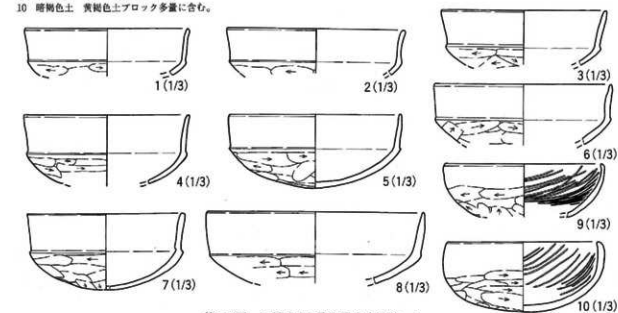
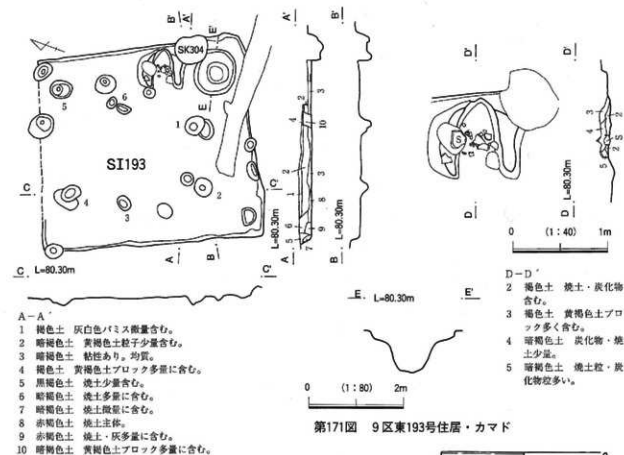
9区東188号住居
位置 9区東 規模形状 南壁が直線的に走る。規模は4.13m+e、3.83m+e 残存壁高は0.10mを測る。主軸方位 ほぼ東西 重複 195号住居、12号井戸(中世)に壊される。床面 やや凹凸がある。カマド 不明 柱穴 不明 その他付属施設 不明 遺物 土師器壺・坏、石製模造品勾玉 所見 6世紀前半



第170図 9区東188号住居・出土遺物

9区東193号住居
位置 9区東 規模形状 長方形を呈し、長辺4.55m、短辺4.35m、残存壁高0.26mを測る。主軸方位 東-18° 北 重複 200号住居を壊す。床面 部分的に黒褐色土と暗褐色土の混土で0.06~0.08mの貼床としている。カマド 東壁中央やや南側に位置する。左袖は一部B軽石を含むピットに、右袖は304号土坑に少し壊されていた。奥行0.86m、焚き口幅0.45mを測る。燃焼部はあまり焼けておらず、燃焼面からの灰も少ししか検出できなかった。燃焼部は中央から支脚石を検出した。燃焼部内から土師器壺・坏片が多数出土した。柱穴 6基検出している。柱穴1 長軸0.48m短軸0.35m深さ0.21m 柱穴2 長軸0.45m短軸0.38m深さ0.16m 柱

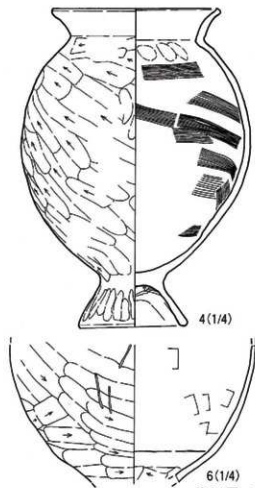
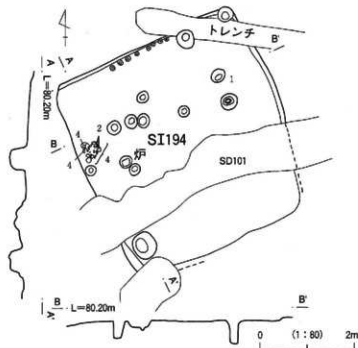
穴3 長軸0.30m短軸0.25m深さ0.18m 柱穴4 長軸0.42m短軸0.30m深さ0.15m 柱穴5 長軸0.48m短軸0.40m深さ0.15m 柱穴6 径0.40m深さ0.20m 柱穴間寸法は、柱穴1～2は1.30m、柱穴2～3は1.70m、柱穴3～4は1.18m、柱穴4～5は2.22m、柱穴5～6は1.00m、柱穴6～1は2.10mである。貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸1.00m短軸0.85m、深さ0.48mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器 甕・杯・壺、珪質頁岩製管玉(32) 所見 6世紀初頭 備考 土師器杯は、内湾口縁・内斜口縁と須恵器蓋模倣杯がある。杯が大型化するのが特徴的である。



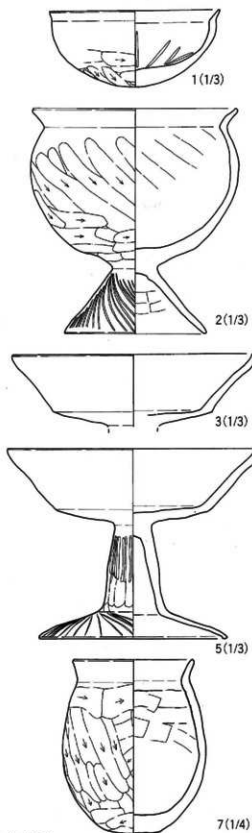
9区東194号住居

位置 9区東 規模形状 長辺4.70m、短辺4.40mの隅丸方形を呈する。残存壁高は0.07mである。主軸方位北 -25° —西 重複 101号溝に填される。床面 平坦面を形成している。炉 住居西側の柱穴の間にある。直径0.25m深さ0.15mである。柱穴 2基検出している。南側の柱穴は検出できなかった。柱穴1 径0.34m深さ0.53m 柱穴2 径0.30m深さ0.38m柱穴間寸法は、柱穴1～2は2.42mである。貯蔵穴 南西隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.60m、短軸0.50m、深さ0.30mを測る。

その他付属施設 北壁の中央部から深さ0.10m前後の小ピットを検出している。遺物 土師器甕・脚台付き鉢・台付き甕・坏・高坏 所見 5世紀後半 備考 炉を有す住居である。脚台のある甕・鉢が特徴的である。

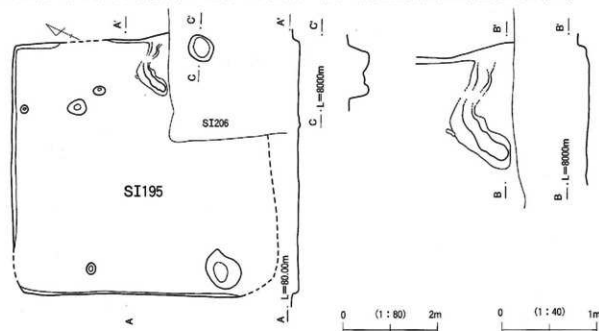


第174図 9区東194号住居・出土遺物

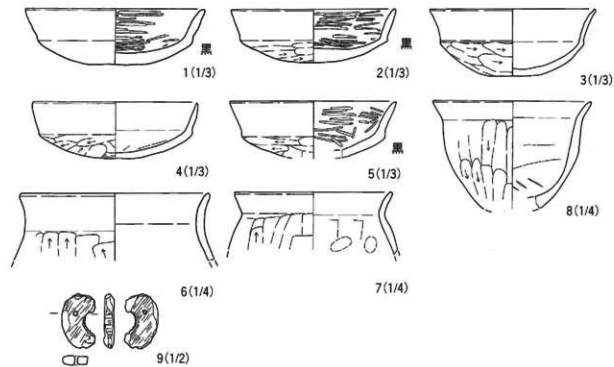


9区東195号住居

位置 9区東 規模形状 ほぼ正方形を呈し、長辺5.35m、短辺5.10m、残存壁高0.14mを測る。主軸方位東-43°-北 重葺 16区36号住居を掘り込む。9区東206号住居、103号溝、298号・300号土坑に壊される。床面 部分的に黒褐色土で0.10m前後の貼床としている。カマド 16区206号住居に右袖と燃焼部の大部分を壊されている。東壁中央部やや南側に位置していたと思われる。規模は不明である。柱穴 不明 貯蔵穴 南西隅に位置する。楕円形を呈し、長軸0.82m、短軸0.60m、深さ0.23mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・甗、石製模造品勾玉 所見 6世紀前半 備考 須恵器蓋模倣坏には、黒色土器が多い。



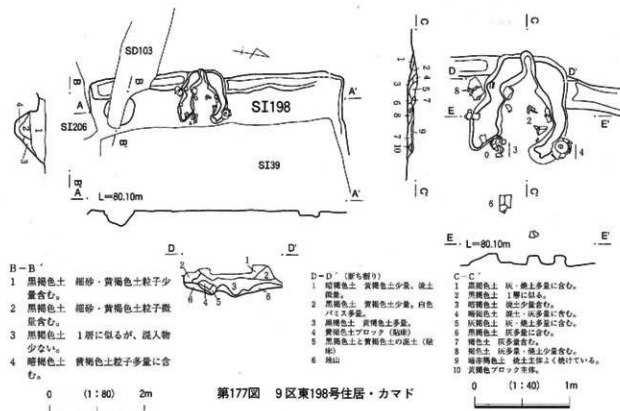
第175図 9区東195号住居・カマド



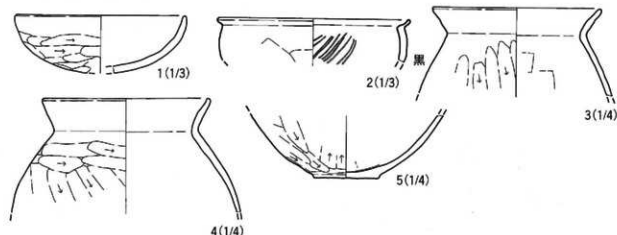
第176図 9区東195号住居出土遺物

9区東198号住居

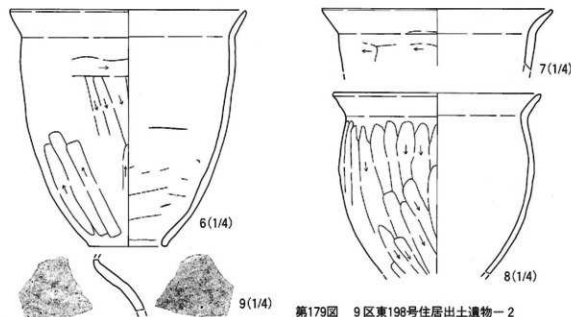
位置 9区東 規模形状 16区39号住居に大部分を壊され、カマド部分と西壁を残すのみであった。長さ5.40m、短辺0.90m+a、残存壁高0.15mを測る。主軸方位 西-35°-南 重複 206号住居、16区39号住居、103号住居に壊される。床面 厚さ0.05~0.15mの貼床が確認される。カマド 西壁中央やや南側に位置する。奥行0.90m、焚き口幅0.45m、煙道部長0.27mを測る。両袖先端部には、土師器の甕が伏せられた状態であった。袖の補強のためと考えられる。燃焼面はほぼ床面と同レベルで、奥は急激に立ち上がる。カマド中央には支脚があった。柱穴 不明 貯蔵穴 南西隅に位置する。円形を呈し、径0.64m、深さ0.34mを測る。その他付属施設 西壁脇から壁周溝を検出した。幅0.20m前後、深さ0.07m~0.10mである。遺物 土師器甕・坏・瓶 所見 6世紀初頭 備考 内斜口縁坏は大型化し、内湾口縁坏は口縁の彎曲がゆるい。



第177図 9区東198号住居・カマド

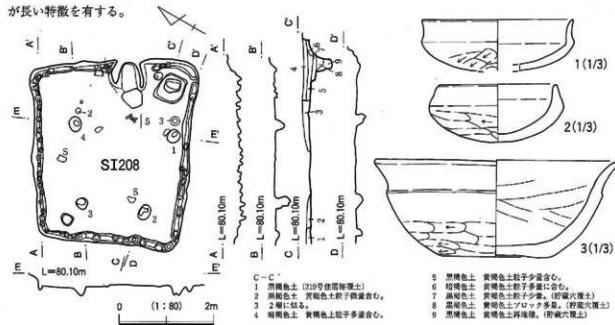


第178図 9区東198号住居出土遺物-1

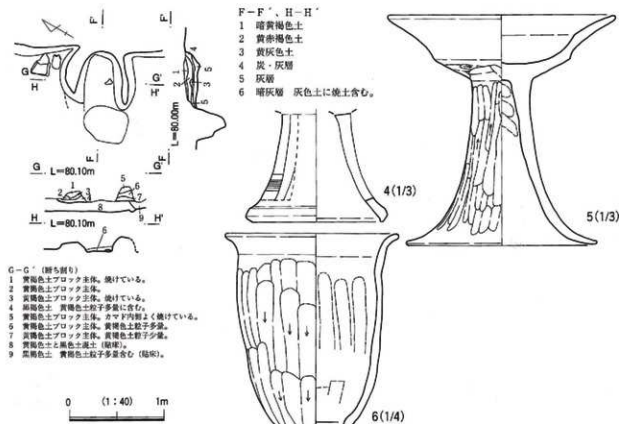


9区東208号住居

位置 9区東 規模形状 長さ3.80m、短辺3.30mの台形に近い長方形プランを呈する。残存壁高0.10mである。主軸方位 東-35°-北 重複 219号住居を掘り込む。床面 黄色土ブロックと黒色土の混土からなる厚さ0.10mほどの貼床がみられる。カマド 東壁中央やや南寄りにある。奥行0.62m、焚き口幅0.50mの規模である。カマド左袖先端は削平されて消失している。カマドの底には、灰が4~6cm堆積し、その上部が使用面となっている。カマドのすぐ前にピットがある。位置からして、柱穴以外の目的で掘られた穴と考えられる。柱穴 主柱穴を4基検出している。柱穴1、長軸0.28m短軸0.26m、深さ0.18m、柱穴2、長軸0.30m短軸0.22m、深さ0.15m、柱穴3、長軸0.25m短軸0.22m、深さ0.32m、柱穴4、長軸0.30m短軸0.25m、深さ0.20mである。貯蔵穴 63cm×56cmの方形プランで、二段に掘られている。深さ約45cmである。その他付属施設 カマド部分を除く壁際に壁周溝が巡る。また、周溝中には小ピットが確認される。遺物 土師器甕・坏・鉢・高坏・瓶、須恵器高坏 所見 6世紀前半 備考 須恵器高坏は、長脚一段透かしの脚部分である。土師器高坏は、脚が長い特徴を有する。



第180図 9区東208号住居・出土遺物-1

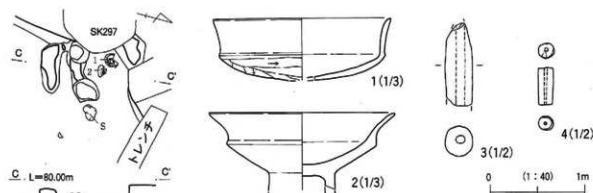


第181図 9区東208号住居カマド・出土遺物-2

9区東209号住居

位置 9区東 規模形状 南北4.85m (推定) 東西4.60mのややゆがんだ正方形プランを呈する。残存壁高は0.25mである。主軸方位 西-14°-北 重構 103号溝・297号土坑に壊される。床面 はほぼ平坦である。黄褐色土と黒色土の混土による貼床が認められる。カマド 西壁中央やや南にある。カマドの袖が3本あり、造り直されたカマドと考えられる。なお、袖3本のうち南の2本は距離が短く、最終的に使用されたカマドは北と中央の袖からなるものと考えられる。カマドの西には297号土坑があり、カマドの燃焼部から奥を壊している。また右袖の先端は後世の掘削で壊されている。よって、カマド奥行と焚き口幅は正確な数値を出せない。右袖の先端には凝灰岩がある。カマドの底に埋め込まれたもので袖石と考えられる。柱穴 カマドの東に主柱穴が1基検出された。径0.30m 深さ0.45mである。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器高坏・甗、須恵器高坏、土師、蛇紋岩製管玉(4) 所見 6世紀後半

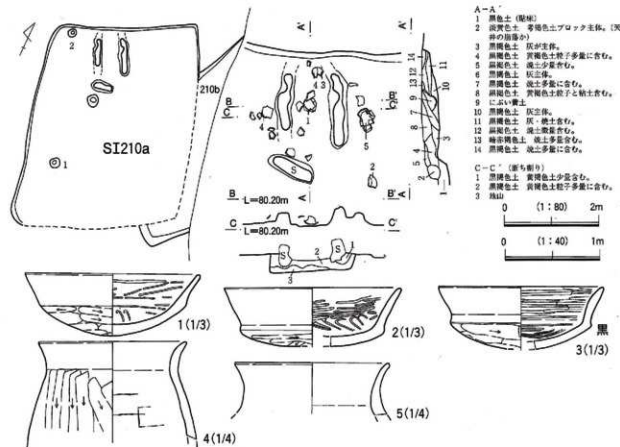
第182図 9区東209号住居



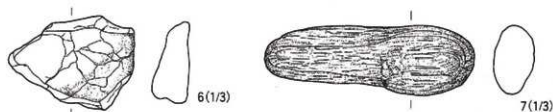
第183図 9区東209号住居カマド・出土遺物

9区東210a号住居

位置 9区東 規模形状 長方形を呈し、長辺4.22m、短辺3.50m、残存壁高0.10mを測る。主軸方位 北-45°-西 重構 210B号住居と重複する。ただし新旧関係は不明。床面 黄褐色土ブロックを含む黒褐色土からなる貼床が認められる。カマド 袖はよく残っていたが、燃焼部奥と煙道部は残っていなかった。焚き口幅0.42mを測る。奥行、煙道部長は不明である。カマド袖は、凝灰岩と粘土を使って構築される。天井石は凝灰岩で焚き口前に落ちていた。燃焼面はほぼ床面と同レベルであった。燃焼部中央から石の上に土師器が乗った状態で出土した。支脚の可能性ある。柱穴 主柱穴を2基検出している。柱穴1 径0.20m深さ0.17m 柱穴2 径0.15m 深さ0.12m 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・高坏 所見 6世紀前半 備考 内面をヘラミガキし、炭素を吸着させたいわゆる黒色土器がある。



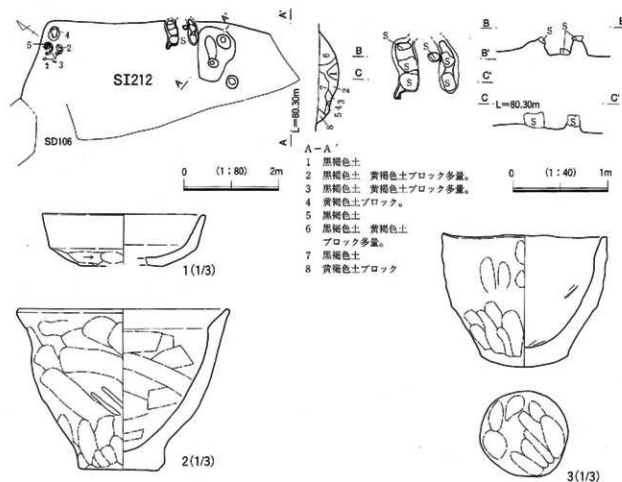
第184図 9区東210a号住居・カマド・出土遺物-1



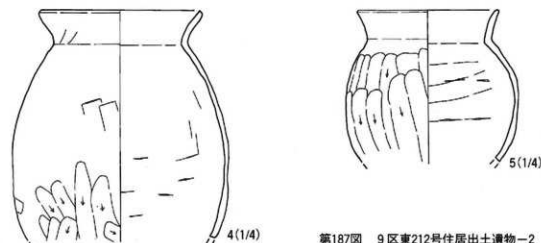
第185図 9区東210a号住居出土遺物-2

9区東212号住居

位置 9区東 規模形状 重複が激しく住居の残りは非常に悪かった。長さ4.80m + a、短辺1.80m + a、残存壁高0.08mを測る。形状は方形プランと推定される。 **主軸方位** 北-44° - 東 重複 222号住居を掘り込む。83号・100号・106号溝に壊される。 **床面** はほぼ平坦である。 **カマド** 東壁中央やや南側に位置する。煙道は削平をうけており残っていない。奥行0.78m、焚き口幅0.22mを測る。袖の芯材として凝灰岩が使われ、やや粘性の強いにぶい黄褐色土で構築される。両袖先端部も凝灰岩である。燃焼面はほぼ床面と同レベルであった。燃焼部はあまり焼けていなかった。燃焼部中央やや右には、支脚とみられる25cmほどの川原石がある。 **柱穴** 不明 **貯蔵穴** カマド右隣に位置する。ほぼ円形で、長軸1.10m、短軸0.80m、深さ0.50mを測る。 **その他付属施設** なし **遺物** 土師器壺・坏・小型甕、粗製土器鉢 所見 6世紀前半 **備考** 坏は須恵器蓋模倣のタイプのみである。土師器壺は長胴化している。粗製の鉢の存在が特徴的である。



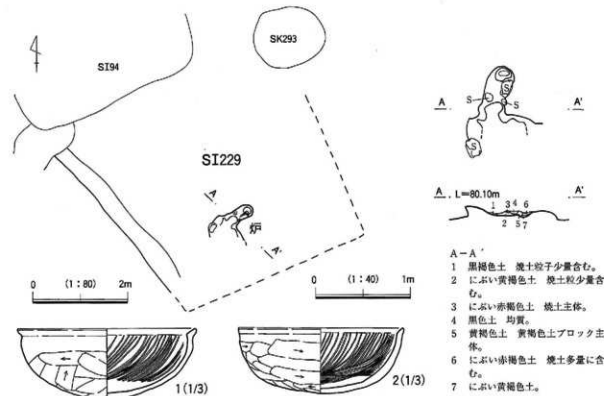
第186図 9区東212号住居・カマド・出土遺物-1



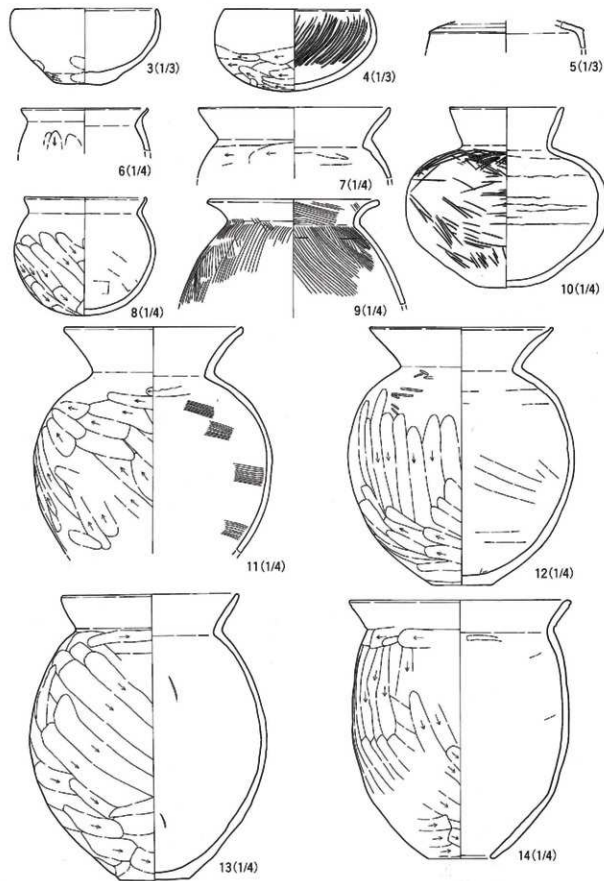
第187図 9区東212号住居出土遺物-2

9区東229号住居

位置 9区東 規模形状 重複が激しく住居の残りは非常に悪かった。どうにか、長さ4.10m + a、短辺2.50m + aの住居範囲を認定した。壁は殆ど残っていないが、形状は方形と推定される。 **主軸方位** 北-45° - 西 重複 101号溝、293号土坑に壊される。 **床面** 黄褐色土を混えた黒褐色土で貼床としている。床面は、やや凹凸があるもののほぼ平坦である。 **炉** 住居中央部より南側に位置する。南側は削平されているが、掘方は1.0m + a × 0.5mほどで、住居床面より0.20m程度、掘り窪めている。また、炉の周囲からは円礫が出土した。 **柱穴** 不明 **貯蔵穴** 不明 **その他付属施設** なし **遺物** 土師器壺・坏・甕・瓶、須恵器蓋坏 所見 炉を有す住居である。壺と大型甕の組み合わせに、内斜口縁坏と椀（3）が伴う。須恵器蓋坏（5）はTK208併行期と考えられる。



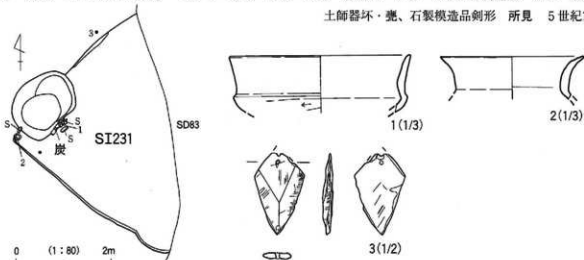
第188図 9区東229号住居・炉・出土遺物-1



第189図 9区東229号住居出土遺物-2

9区東231号住居

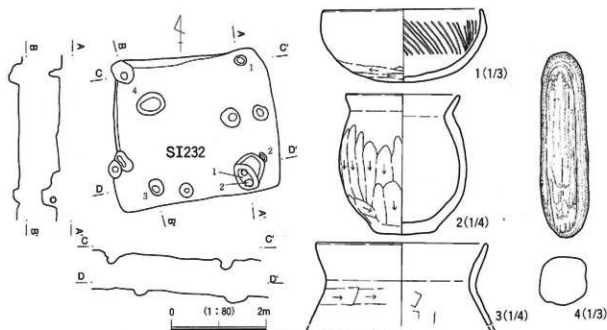
位置 9区東 規模形状 住居の南西部を検出した。大部分は溝で壊されている。東西4.00m+a、南北3.60m+a、方形プランと推定される。残存壁高は0.10mである。主軸方位 西-38°-北 重複 83号溝に壊される。床面 やや起伏がある。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器・環・壺、石製模造品・銅形 所見 5世紀末



第190図 9区東231号住居・出土遺物

9区東232号住居

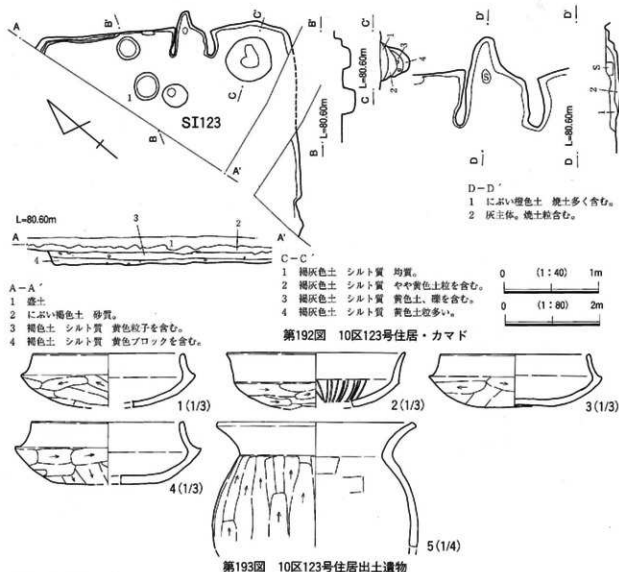
位置 9区東 規模形状 不整形方形プランを呈する。長辺3.50m、短辺3.00m、残存壁高0.08mを測る。主軸方位 東-13°-北 重複 222号住居を掘り込む。床面 やや凹凸がある。カマド なし 柱穴 主柱穴を4基検出している。柱穴1 長軸0.25m短軸0.20m深さ0.23m 柱穴2 長軸0.20m短軸0.10m深さ0.20m 柱穴3 長軸0.35m短軸0.30m深さ0.32m 柱穴4 長軸0.52m短軸0.42m深さ0.30m 柱穴間寸法は、柱穴1~2は2.10m、柱穴2~3は2.35m、柱穴3~4は2.50m、柱穴4~1は2.46mである。貯蔵穴 南東隅に位置する。不整形円で、長軸0.80m、短軸0.60m、深さ0.38mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器・環、磨礫石 所見 6世紀初頭 備考 内寄り縁環(1)は、やや大型で底部のヘラケズリ範囲がせまい。



第191図 9区東232号住居・出土遺物

10区123号住居

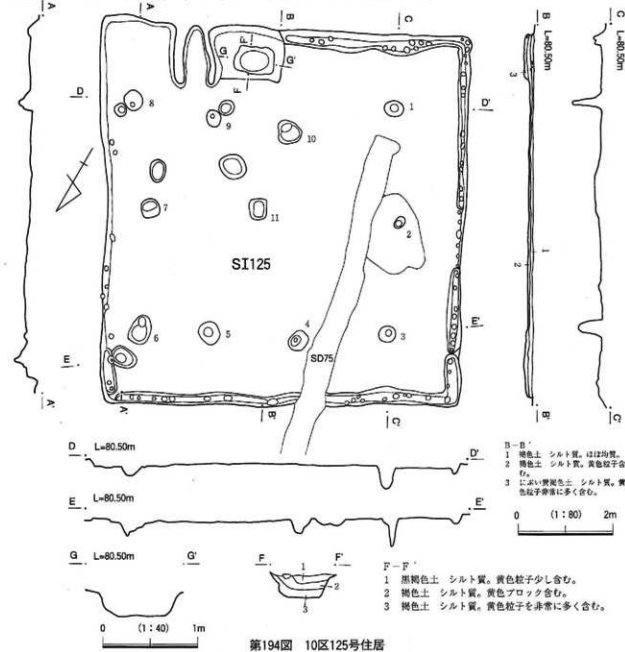
位置 10区 規模形状 南北5.10m、東西4.30m+α、残存壁高0.53mを測る。住居の西半部が未調査であるが、形状は方形と推定される。主軸方位 東-24°-北 重複 なし 床面 はほぼ平坦である。カマド 東壁中央部やや南に位置する。奥行1.00m、焚き口幅0.56mを測る。燃焼面は床面より僅かに掘り窪む。燃焼部内には、支脚とみられる川原石がある。柱穴 主柱穴を1基検出している。柱穴1 長軸0.60m短軸0.50m深さ0.29m 貯蔵穴 南東隅に位置する。円形を呈し、径0.95m、深さ0.60mを測る。その他付属施設 北東コーナーから壁周溝を検出した。幅0.10~0.12m、深さ0.05mほどである。遺物 土師器壺・坏 所見 6世紀後半 備考 土師器坏は、須恵器坏身模倣(1・3・4)と蓋模倣(2)とがある。やや小型である。

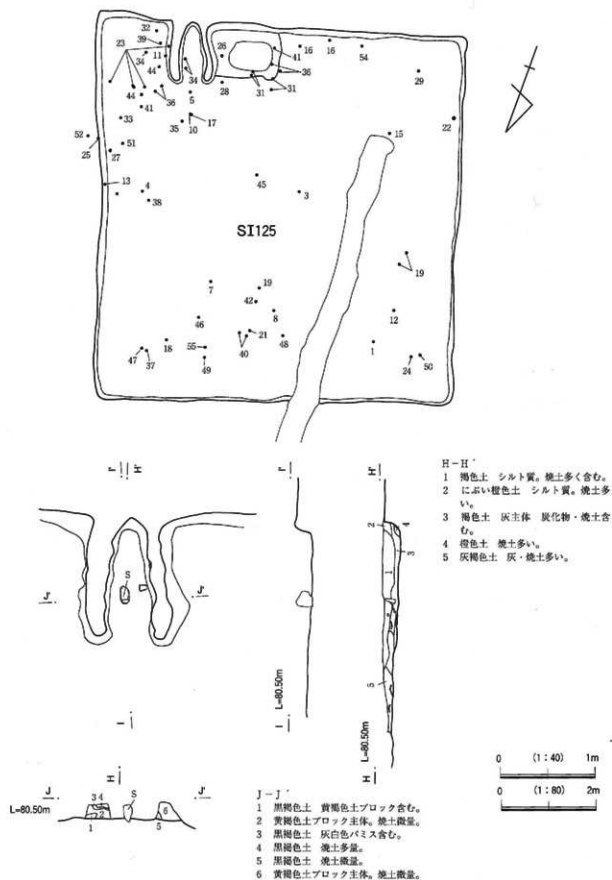


10区125号住居

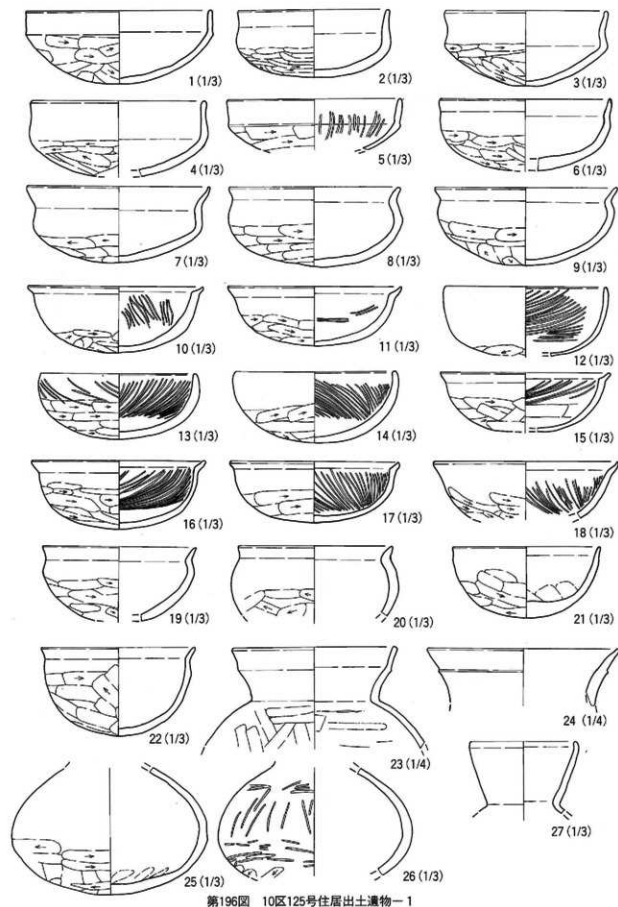
位置 10区 規模形状 南北8.00m、東西7.60mとほぼ正方形。残存壁高は0.10m。主軸方位 南-25°-東 重複 129号住居を掘り込み、75号溝に壊される。床面 貼床が認められ、全体で平坦面を形成している。カマド 南壁中央やや東に位置する。奥行1.37m、焚き口幅0.40m。袖は住居内に張り出し、燃焼面は床面とは同レベル、カマド奥で急激に立ち上がる。燃焼部中央やや東からは、石製の支脚が燃焼面に刺さるような状態で検出された。柱穴 主柱穴を11基検出した。東西方向が柱穴4基、南北方向が3基の構造と考えられる。

柱穴1 長軸0.38m短軸0.34m深さ0.46m。柱穴2 長軸0.24m短軸0.20m深さ0.05m。柱穴3 長軸0.34m短軸0.30m深さ0.57m。柱穴4 長軸0.45m短軸0.40m深さ0.32m。柱穴5 長軸0.50m短軸0.40m深さ0.38m。柱穴6 長軸0.50m短軸0.44m深さ0.39m。柱穴7 径0.40m深さ0.19m。柱穴8 長軸0.43m短軸0.40m深さ0.21m。柱穴9 長軸0.32m短軸0.30m深さ0.23m。柱穴10 長軸0.50m短軸0.44m深さ0.28m。柱穴11 長軸0.40m短軸0.35m深さ0.14m 貯蔵穴 カマド右側に位置する。方形を呈し、長辺1.04m、短辺0.92m、深さ0.27mを測る。その他付属施設 カマド部分を除き壁周溝を検出した。幅0.20~0.30m、深さ0.05~0.15m。溝内から多数の小ビツトを検出した。遺物 土師器壺・壺・坏・埴・埴・鉢・鉢、須恵器付燈、ハソウ・坏身、朝鮮三国系軟質土器、石製模造品勾玉・剣形・白玉、石製紡錘車、砥石、土鏝、高坏転用羽口、鉄鏝(柄一部残る。曲刀鏝)と多い。所見 5世紀後半 備考 須恵器ハソウ(40・41)は頸部が細く肩がやや張る。脚台付き壺も(44)頸部が細く肩が張るのは、ハソウと共通する。須恵器坏身は、立ち上がり部端に平坦面をもち、体部は幾分丸い。いずれもTK23併行期と考えられる。朝鮮三国系軟質土器壺(43)は、胴部全体に叩き目が見られる。叩き目のかなりの部分は、その後のハケ調整およびナデで消えている。

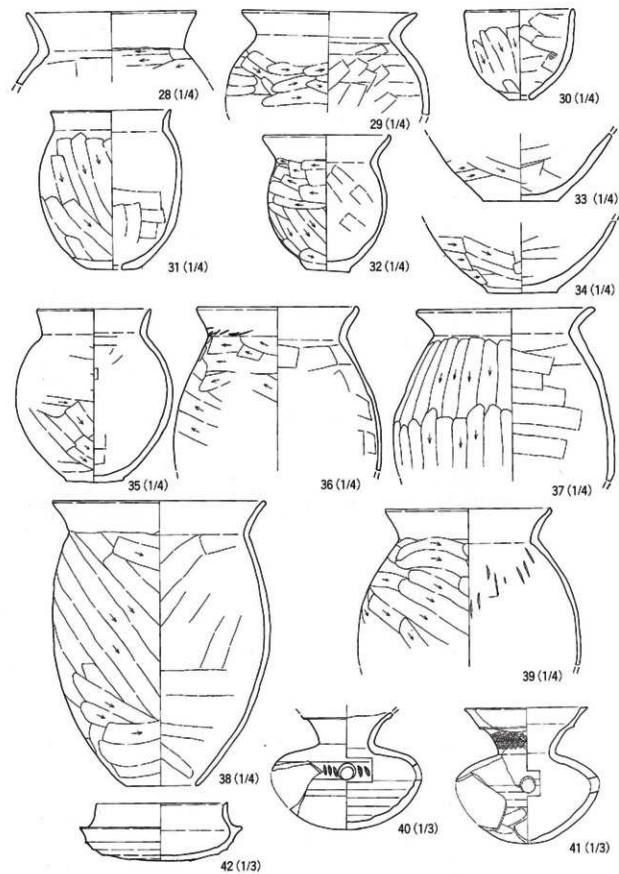




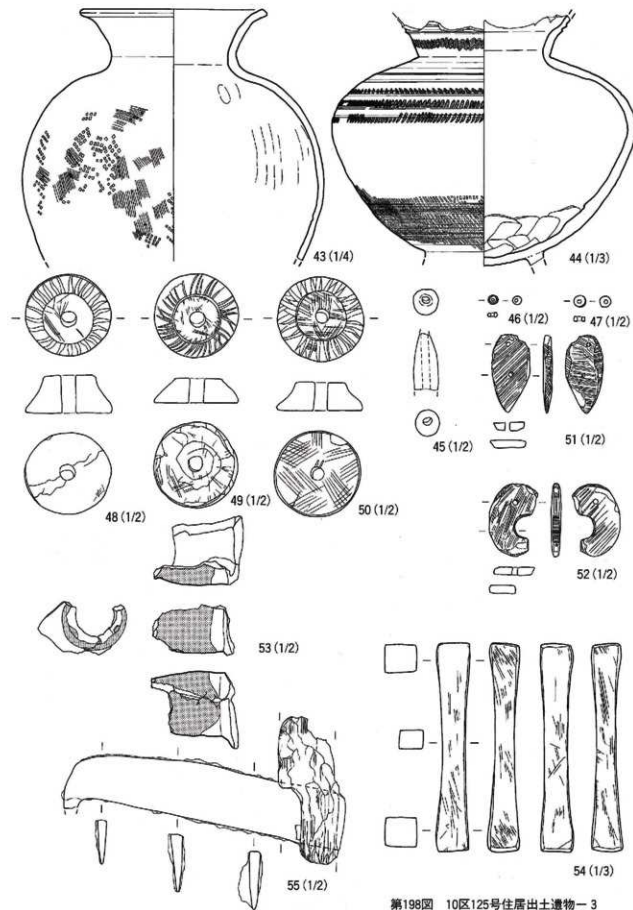
第195図 10区125号住居遺物出土状況・カメラ



第196図 10区125号住居出土遺物-1



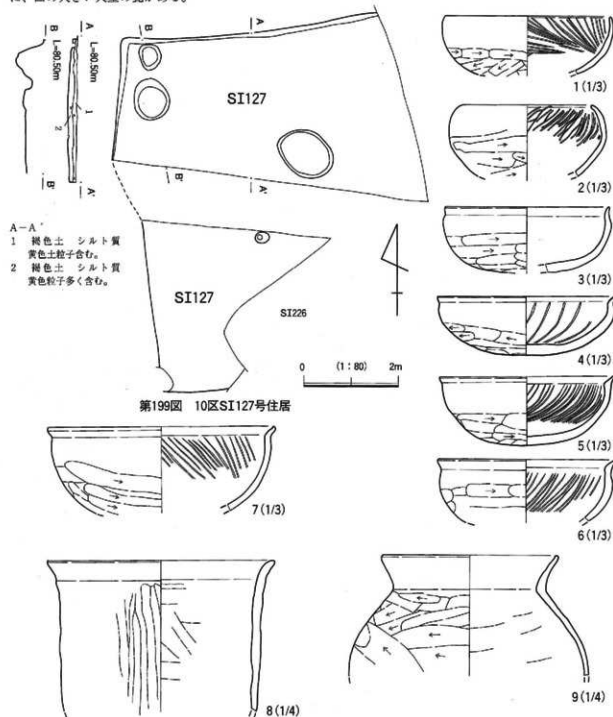
第197図 10区125号住居出土遺物-2



第198図 10区125号住居出土遺物-3

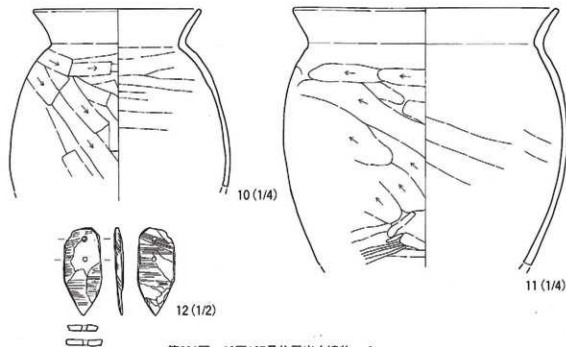
10区127号住居

位置 10区 規模形状 重葺が敷しく住居のかりの部分が壊されている。形状は方形を呈すると推定される。東西6.50m+a、南北4.0m+a、残存壁高0.14mを測る。主軸方位 北-5°-西 重葺 144号住居を掘り込む。226・227号住居、77号溝に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・瓶・杯・高坏、石製模造品剣形 所見 5世紀後半 備考 壺は胴が丸く、また杯のつくりも丁寧である。また、杯には大小のバリエーションがある。壺は口の小さいもの他に、口の大きい大型の壺がある。



第199図 10区SI127号住居

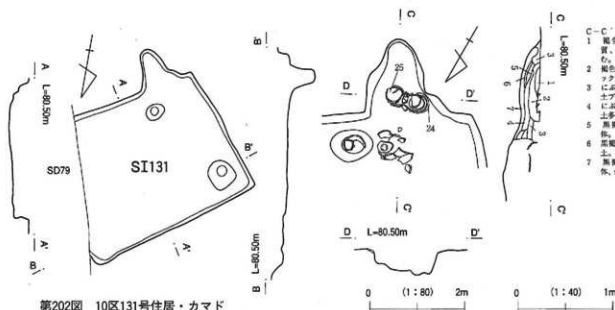
第200図 10区127号住居出土遺物-1



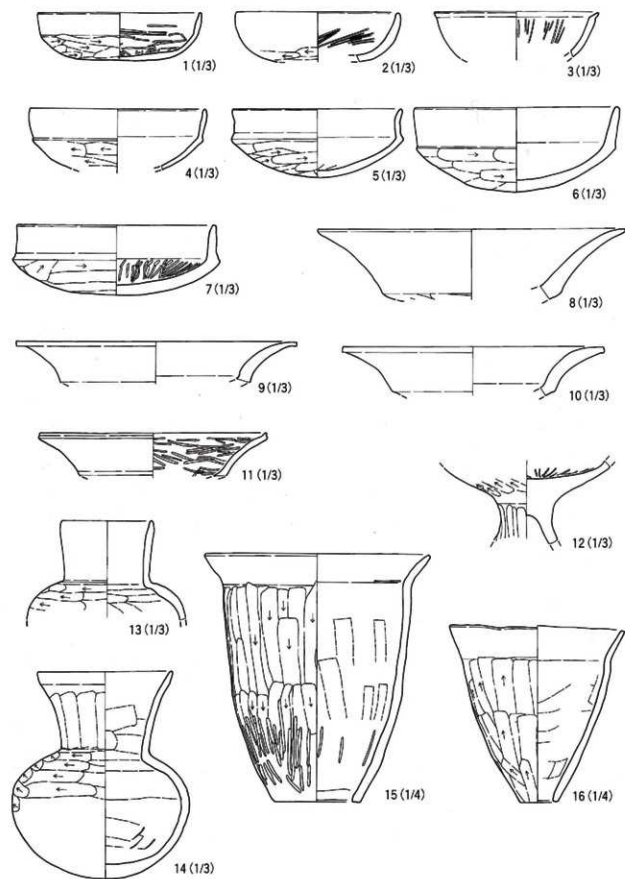
第201図 10区127号住居出土遺物-2

10区131号住居

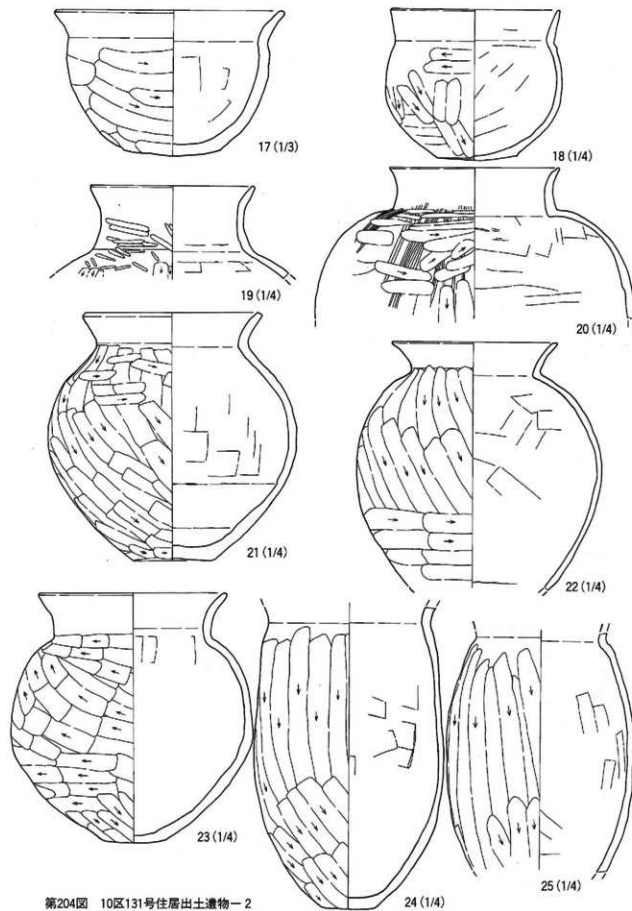
位置 10区 規模形状 長方形を呈し、東西4.10m、短辺3.65m、残存壁高0.29mを測る。主軸方位 南-31°-東 重葺 132号住居を掘り込み、77号溝に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 南壁の西側に位置する。袖は無く、燃焼部は壁外を削り込んでつくられる。奥行0.80m、焚き口幅0.90mを測る。燃焼面は床面よりも若干高く、よく焼け灰を多量に検出した。燃焼部から土師器 が大量に出土している。柱穴 主柱穴を2基検出した 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・壺・瓶・高坏、蛇紋岩製勾玉 (30)、石製模造品勾玉、砥石 所見 6世紀中頃 備考 土師器壺は、胴部が球形のものと長胴のものがある。土師器杯は、須恵器壺模倣のものと、坏身模倣のものがある。前者は、口径16cm以上もある大型品があるが、須恵器杯の大型化に影響されたものと考えられる。高坏は、坏部に稜をもつものと、持たないものとの2者がある。脚部が長く発達している。内面をヘラミガキするものもある。黒色土器の割合は少ない。



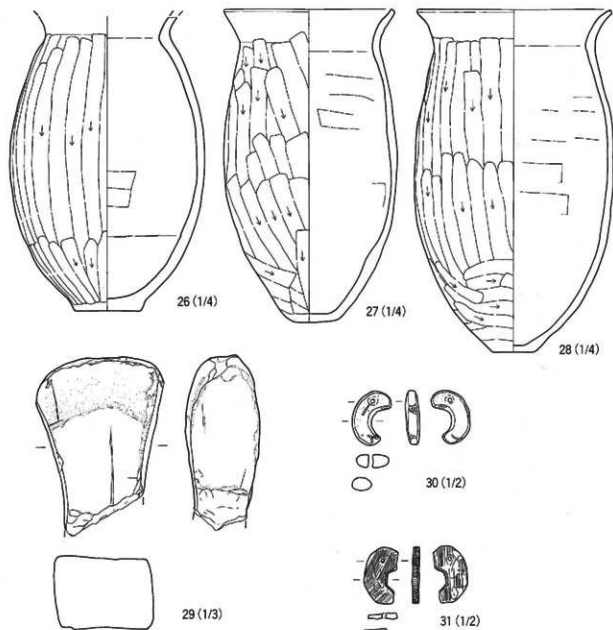
第202図 10区131号住居・カマド



第203図 10区131号住居出土遺物—1



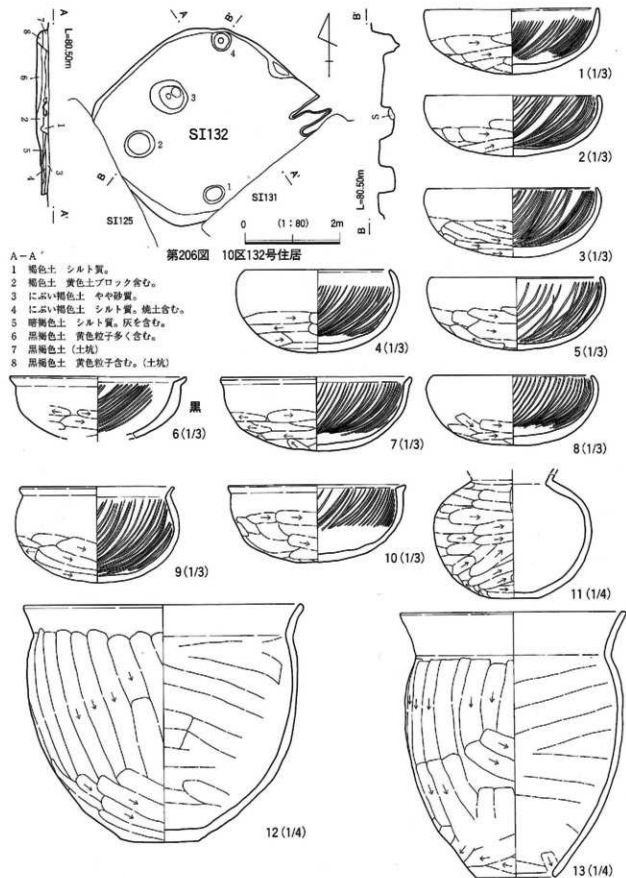
第204図 10区131号住居出土遺物—2



第205図 10区131号住居出土遺物-3

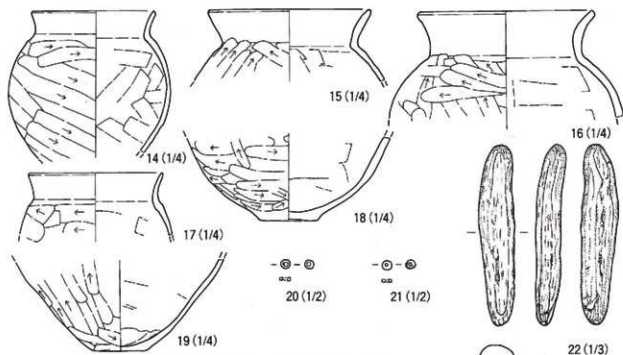
10区132号住居

位置 10区 規模形状 重複が激しく南・西壁の残りは悪かった。形状は方形を呈すると推定される。長辺4.21m、短辺3.40m、残存壁高0.24mを測る。主軸方位 東-16°-北 重複 125号・131号住居に壊される。床面 暗褐色土で部分的に貼床としている。カマド 東壁の南側コーナーに位置する。奥行0.88m、焚き口幅0.30mである。南壁際から焼土を、西壁際から灰を多量に検出した。柱穴 4基検出している。柱穴1 長軸0.45m短軸0.42m深さ0.07m 柱穴2 長軸0.64m短軸0.58m深さ0.30m 柱穴3 長軸0.78m短軸0.68m深さ0.32m 柱穴4 径0.40m深さ0.60m 柱穴間寸法は、柱穴1～2は1.85m、柱穴2～3は1.16m、柱穴3～4は1.60mである。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・甕、麻腐石、ガラス製小玉(20)、石製模造品白玉(21) 所見 5世紀後半 備考 土師器壺は、全体に胴部が丸みを持つが、丸いものと長胴のもの、口縁が大きいタイプのものもある。土師器杯は、内斜口縁と内弯口縁のものに限られ、いわゆる須恵器模倣の杯はない。



第206図 10区132号住居

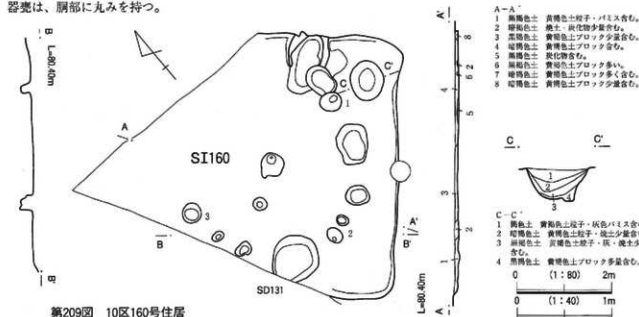
第207図 10区132号住居出土遺物-1



第208図 10区132号住居出土遺物-2

10区160号住居

位置 10区 規模形状 79号溝に壊されるが、形状は方形を呈すると推定される。東西5.60m、南北5.40m、残存壁高0.08mを測る。主軸方位 東-34° 北 重複 79号溝に壊される。床面 はほぼ平坦で、褐色土と黄褐色土の粘土の貼床が認められる。カマド 東壁中央やや南に位置する。柱の先端は削りされていた。カマド奥行不明、焚き口幅不明。暗褐色土を含む粘性の強いにぶい黄褐色土で構築される。燃焼面は床面より0.15mほど掘り窪んでいた。焚き口からは多量の灰を抽出した。燃焼部内から多量の土師器片が出土した。柱穴 主柱穴を3基検出している。柱穴1 長辺0.44m短辺0.38m深さ0.29m 柱穴2 長辺0.36m短辺0.28m深さ0.28m 柱穴3 長辺0.42m短辺0.40m深さ0.09m 柱穴間寸法は、柱穴1～2は3.00m、柱穴2～3は3.00mである。貯蔵穴 カマド南に位置する。円形を呈し、径79m、深さ0.34mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・高坏 所見 5世紀後半 備考 土師器杯は、内斜口縁と内弯口縁のみで、高坏が共存する。土師器壺は、胴部に丸みを持つ。

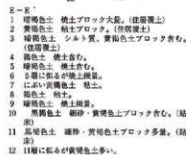


第209図 10区160号住居

第1節 竈穴住居



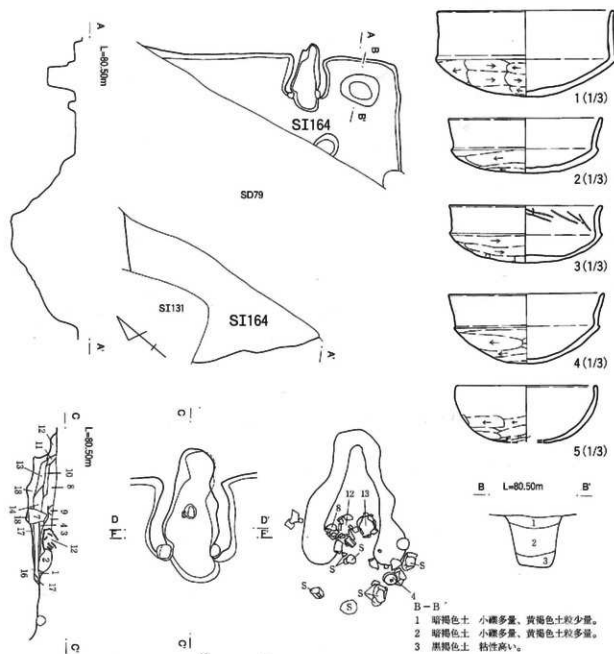
第210図 10区160号住居カマド



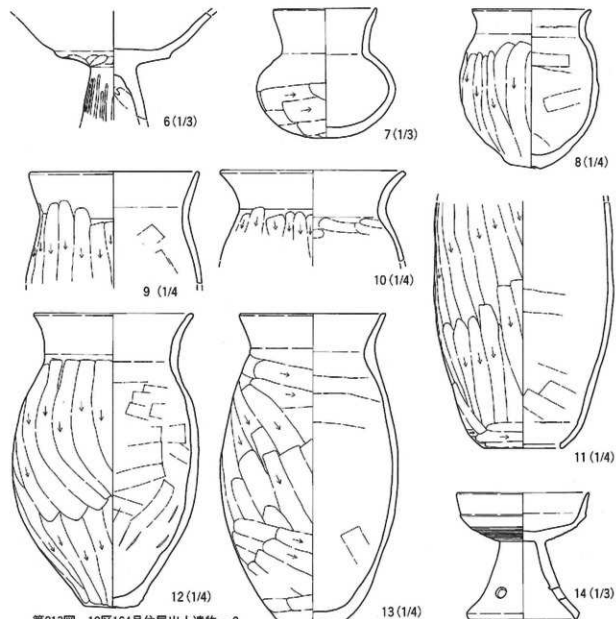
第211図 10区160号住居出土遺物

10区164号住居

位置 10区 規模形状 79号溝に住居の大半を壊されるが、形状はほぼ正方形を呈する。東西6.20m、南北5.90m、残存壁高0.24mを測る。主軸方位 北-44° 東 重複 131号住居、245号土坑、79号溝に壊される。床面 褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが混じる0.06～0.10mほどの厚さの貼床である。カマド 東壁中央部やや南に位置する。奥行1.20m、焚き口幅0.40mを測る。暗褐色土を含む粘性の強いにぶい黄褐色土で構築される。両柱先端部の軸石は角閃石安山岩である。燃焼面は床面より0.10m程掘り窪んでいた。内壁はそれほど焼けていなかった。焚き口から右袖前にかけて多量の灰を抽出した。燃焼部は中央に河原石がささった状態で検出された。支脚と考えられる。燃焼部内には、土師器の壺が3個体据えられた状態で出土した。柱穴 不明貯蔵穴 カマド南に位置する。楕円形を呈し、長軸0.88m、短軸0.60m、深さ0.55mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・杯・高坏・瓶・埴・須恵器高坏 所見 須恵器高坏 (14) は、MT15併行期と考えられる。土師器杯は、須恵器壺杯模倣のものが主体で、口径14.0cmという大型品もある。須恵器の大型化に呼応したものであろう。壺はかなり長胴化している。胴部の最大部は中位にある。



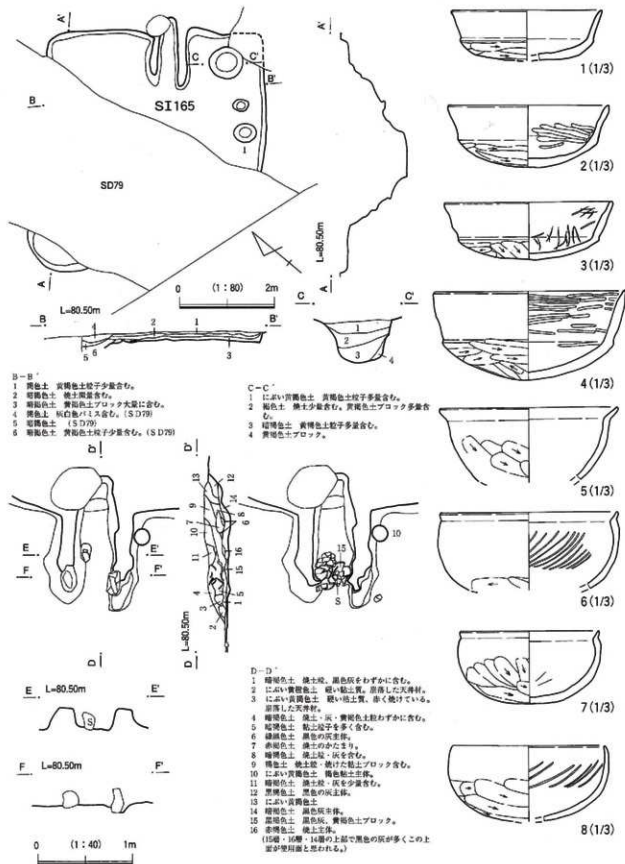
第212図 10区164号住居・カマド・出土遺物—1



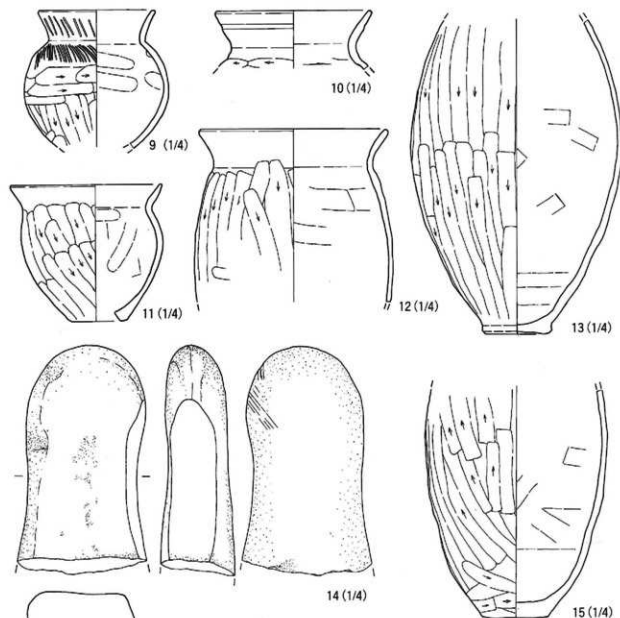
第213図 10区164号住居出土遺物—2

10区165号住居

位置 10区 規模形状 79号溝に住居の大半を壊される。形状は方形を呈する。東西5.20m、南北4.60m、残存壁高0.20mを測る。主軸方位 北-37° 一東 重複 191号住居、79号溝に壊される。床面 は平坦で黄褐色土と黒色土の混土による貼床がある。カマド 北壁ほぼ中央に位置する。奥行1.42m、焚き口幅0.34mを測る。黒褐色土を含む粘性の強いに黄褐色土で構築される。右端先端部には凝灰岩が、左端先端部には地山粘土ブロックが楕石として据えられている。燃焼面は住居床面とほぼ同レベルで、奥にいくにつれ次第に立ち上がる。燃焼部中央やや左側から支脚を検出した。支脚には地山粘土ブロックが使われていた。燃焼部内から土師器甕が2個体はほぼ据えられた状態で出土した。柱穴 主柱穴を1基検出している。柱穴 1 長軸0.45m短軸0.38m深さ0.18m 貯蔵穴 北東隅に位置する。円形を呈し、径0.70m深さ0.46mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・環 所見 6世紀前半 備考 土師器甕は、かなり長調化している。房部最大径は中位にある。土師器環は、内斜口縁と内弯口縁、須恵器蓋坏模倣とある。内斜口縁と内弯口縁坏には口径が大きいもののや、深いものがある。また、模倣坏は、口径が15cmを超える大型品がある。小型のものは口径がやや外傾する特徴がある。模倣坏には、内面に横位のヘラミガキを施すものがある。



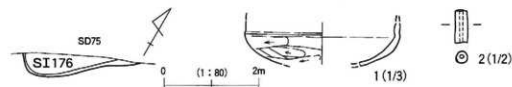
第214図 10区165号住居・カマド・出土遺物-1



第215図 10区165号住居出土遺物-2

10区176号住居

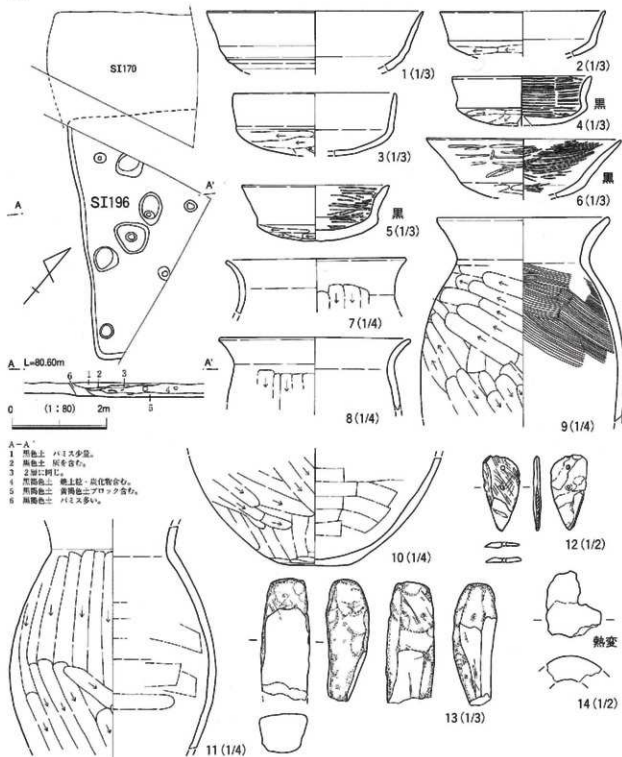
位置 10区 規模形状 住居の大部分を、後の時代の遺構に壊され全体は不明。住居の南壁と南西コーナーを調査。プランは方形と推定される。南壁は2.30mの長さで検出したので、これ以上の大きさが予想される。 主軸方位 東-30°-北 重複 177号住居・75号溝に壊される。 床面 ほぼ平坦である。 カマド 不明 柱穴 未検出 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器杯、蛇紋岩製管玉 所見 6世紀前半



第216図 10区176号住居・出土遺物

10区196号住居

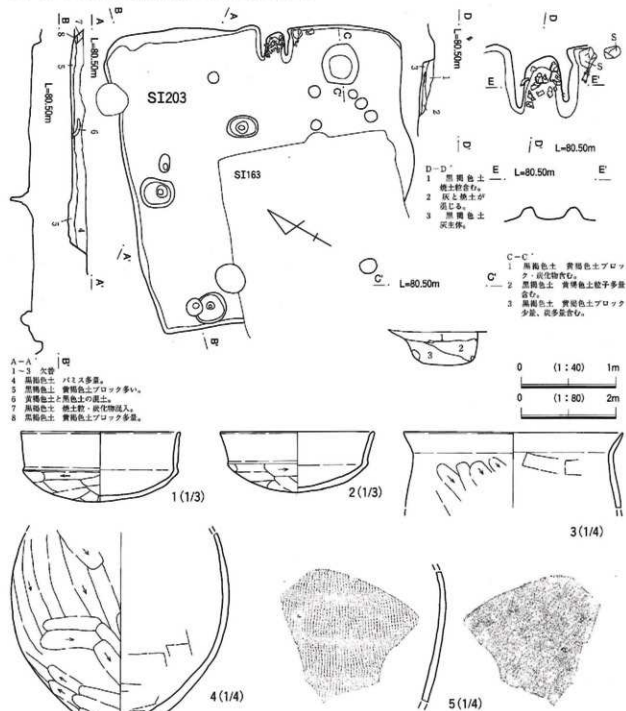
位置 10区 規模形状 南北7.4m、東西2.85m + a、方形と考えられる。主軸方位 北-30° - 西 重複 197号・11区170号住居を壊す。床面 は平坦である。カマド 不明。柱穴 3基柱穴の可能性ある。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし。遺物 土師器甕・杯・高杯、須恵器高杯、磁石、石製根造品剣形、土製羽口(14) 所見 6世紀前半 備考 土師器杯には、小型で内面に横位のヘラミガキ黒色処理のタイプがある。



第217図 10区196号住居・出土遺物

10区203号住居

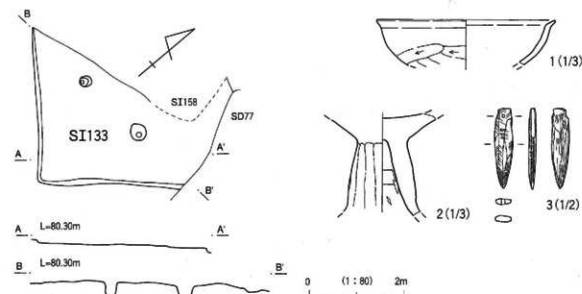
位置 10区 規模形状 はほぼ正方形を呈し、東西6.40m、南北6.00m、残存壁高0.26mを測る。主軸方位 東-22° - 北 重複 204号住居を掘り込み、163号住居に壊される。床面 は平坦で臥床が認められる。カマド 東壁ほぼ中央に位置する。奥行0.67m、焚き口幅0.35mを測る。燃焼面は住居床面と同レベルで、奥にいくにつれ徐々に立ち上がる。燃焼部内から大量の土師器断片が出土した。柱穴 3基検出している。貯蔵穴 カマド右脇に位置する。楕円形を呈し、長軸0.86m、短軸0.77m、深さ0.36mを測る。その他付属施設 なし。遺物 土師器甕・杯・甕、須恵器甕 所見 5世紀末-6世紀初頭 備考 土師器杯は須恵器模倣杯に限られる。また、土師器甕は長胴ではあるが丸みを持つ。



第218図 10区203号住居・カマド・出土遺物

11区133号住居

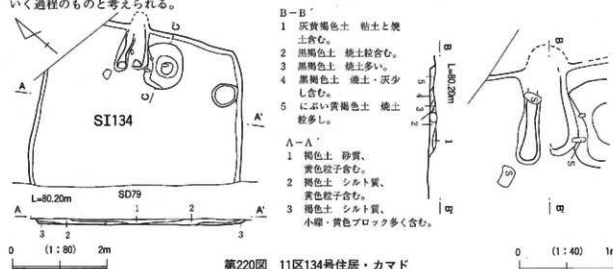
位置 11区 規模形状 南北4.16m東西3.30m+αの規模で、方形プランと考えられる。残存壁高0.15mを測る。
主軸方位 北-35° 東 重複 158号住居・77号溝に壊される。床面 やや凹凸があるものの全体では平坦である。カマド 不明 柱穴 ビットが2基検出されている。主柱穴かどうか判断しがたい。貯蔵穴 不明
その他付属施設 なし 遺物 土師器・高坏 石製模造品剣形 所見 5世紀末



第219図 11区133号住居・出土遺物

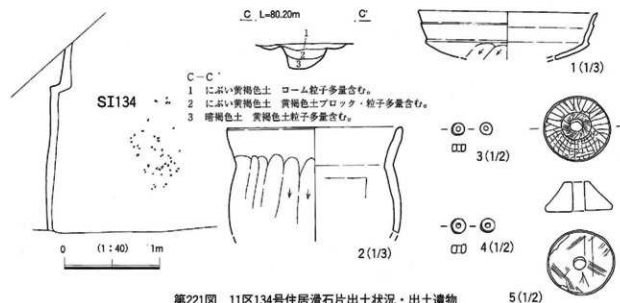
11区134号住居

位置 11区 規模形状 南北4.45m東西3.18m+αの規模で、方形プランと考えられる。残存壁高は0.14mを測る。
主軸方位 東-20° 北 重複 190号住居を掘り込む。79号溝に壊される。床面 やや凹凸がある。部分的に地山の礫が床面に出ている。カマド 東壁中央 柱穴 不明 貯蔵穴 カマド南にある。その他付属施設 なし 遺物 土師器・高坏、石製紡錘車、石製模造品白玉 所見 6世紀第3四半期 備考 住居中央やや北の覆土中から、滑石片が大量に出土している。本住居が玉造工跡とは考えにくく、滑石片は住居が埋没していく過程のものと考えられる。



第220図 11区134号住居・カマド

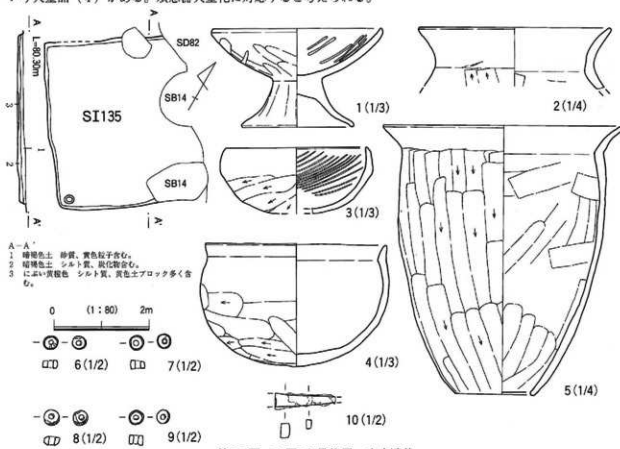
第1節 壁穴住居



第221図 11区134号住居滑石片出土状況・出土遺物

11区135号住居

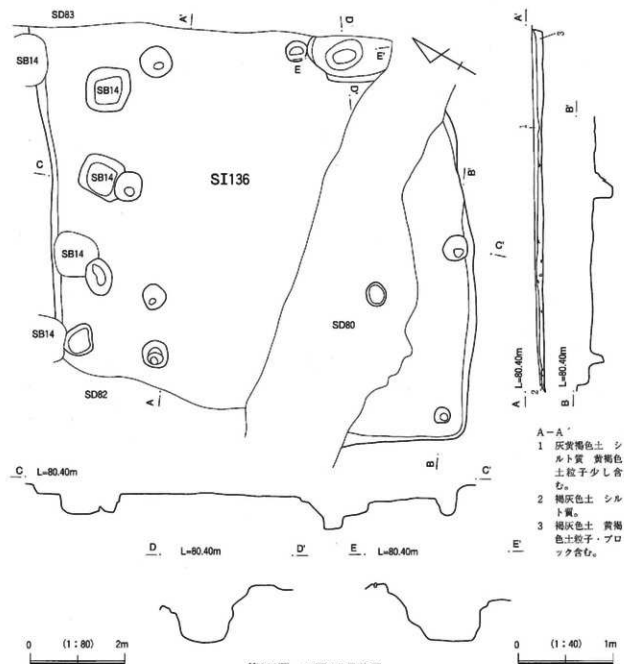
位置 11区 規模形状 溝と大型掘立に住居のかんりの部分を壊されたが、形状は方形と考えられる。南北3.45m、東西2.50m+α、残存壁高0.17mを測る。主軸方位 東-25° 北 重複 82号溝・14号掘立柱建物跡に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器・高坏・高坏・瓶、石製模造品白玉 所見 6世紀初頭 備考 土師器坏に口径14.2cm深さ9.8cmという大型品(4)がある。須恵器大型化に対応すると考えられる。



第222図 11区135号住居・出土遺物

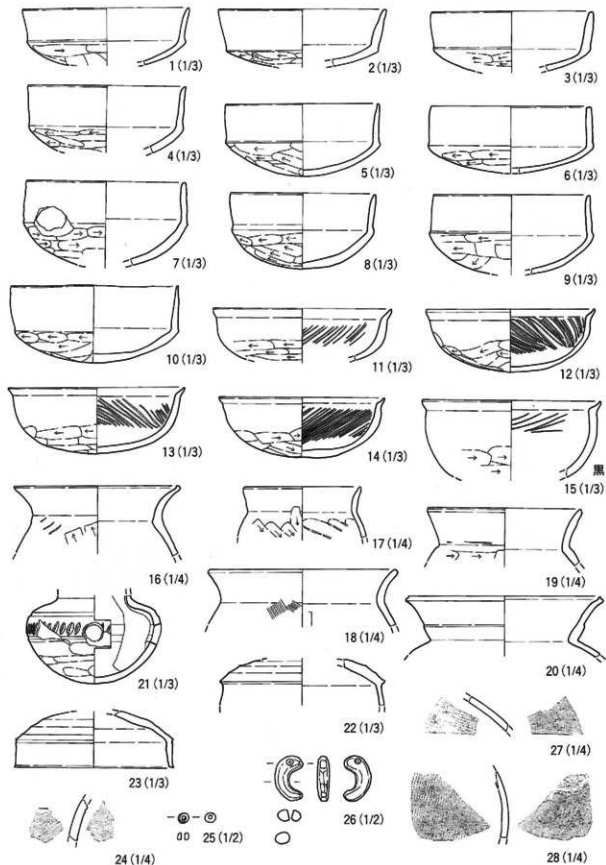
11区136号住居

位置 11区 規模形状 ほぼ正方形を呈し、南北8.90m、東西8.60m + a、残存壁高0.23mを測る。主軸方位東-27° 北 重畳 189号住居を掘り込む。80・82・83号溝、14号独立柱建物の柱穴に壊れる。床面 ほぼ平坦で住居中央がやや高い。カマド カマドは残っていないが、住居東壁階床面から灰を多量に検出した。東壁にカマドがあったと推定される。柱穴 主柱穴4基、南と西に補助柱穴がある。貯蔵穴 南東隅に位置する。80号・83号溝に一部を壊されていたが、形状は不整形と推定される。長辺1.80m + a、短辺1.40m + a、深さ0.62mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器要・坏、須恵器蓋坏・ハソウ、黄味を帯びた玉髄製勾玉(26)、石製模造品白玉 所見 須恵器蓋坏は天井部が丸みをもつ。また、口縁端部もやや丸い。TK47併期と考えられる。ハソウは頸部がやや太いが肩部は張り、これも同じ頃に位置づけられる。土師器坏は、内斜口縁の坏もあるが須恵器蓋模倣の坏も多くなる。口縁は直立し体部が丸い。

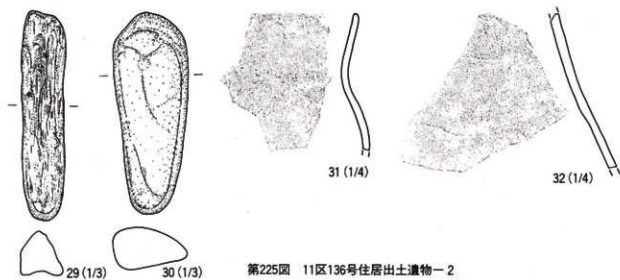


第223図 11区136号住居

第1節 堅穴住居



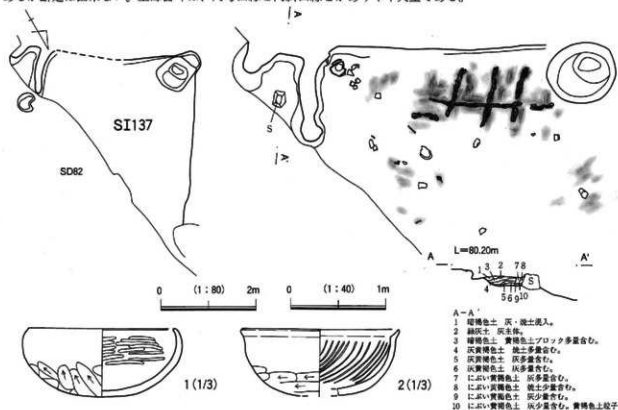
第224図 11区136号住居出土遺物-1



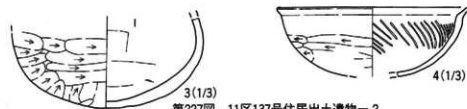
第225図 11区136号住居出土遺物—2

11区137号住居

位置 11区 規模形状 重複が激しく住居の大半を壊され残りは悪かった。形状は方形と推定され、長辺4.00m + α 、短辺3.00m + α 、残存壁高0.16mを測る。主軸方位 南-30° - 西 重複 190号住居を掘り込む。189・205・230号住居、82号溝、14号掘立柱建物に壊される。床面 平坦面を形成している。カマド 南壁中央やや東側に位置する。カマドの先端は溝に壊される。カマドの奥行0.80m + α 、焚き口幅不明。焚き口付近の20cmほどの自然石は支脚と考えられる。柱穴 不明 貯蔵穴 南西隅に位置する。隅丸方形を呈し、長辺0.70m、短辺0.68m、深さ0.42mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏 所見 6世紀初頭 備考 住居南壁際の西側から炭化材が組まれたような状況で、また炭化物も同時に検出された。薪材の可能性もあるが断定は出来ない。土師器坏は、内弯口縁と内斜口縁とがありやや大型である。



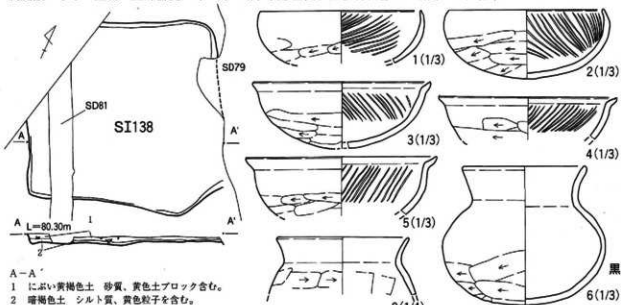
第226図 11区137号住居・カマド・炭化物出土状況・出土遺物—1



第227図 11区137号住居出土遺物—2

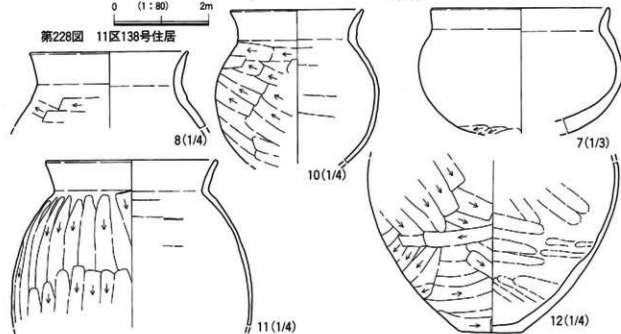
11区138号住居

位置 11区 規模形状 南北4.00m、東西3.90m + α 、とはほぼ正方形を呈す。残存壁高0.08mを測る。主軸方位 東-25° - 北 重複 169号住居を掘り込む。79号・81号溝に壊される。床面 かなり起伏がある。黄褐色土粒を多く含む暗褐色土で部分的に貼床としている。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・鉢・埴、須恵器甕、蛇紋岩製管玉 所見 5世紀末

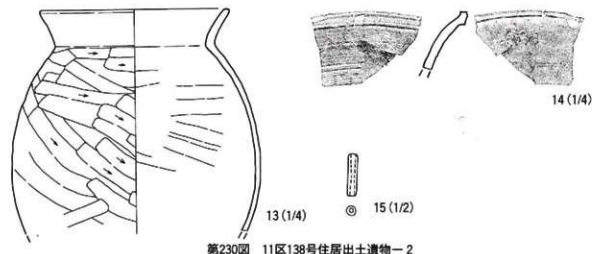


A-A' 1 に近い黄褐色土 砂質、黄色土ブロック含む。
2 暗褐色土 シルト質、黄色土粒を含む。

第228図 11区138号住居



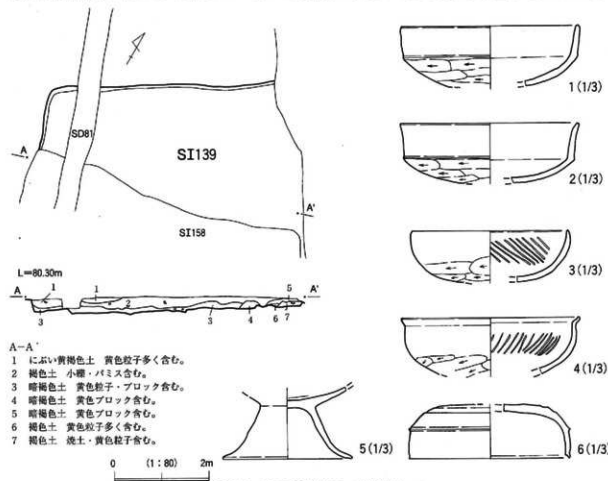
第229図 11区138号住居出土遺物—1



第230図 11区138号住居出土遺物-2

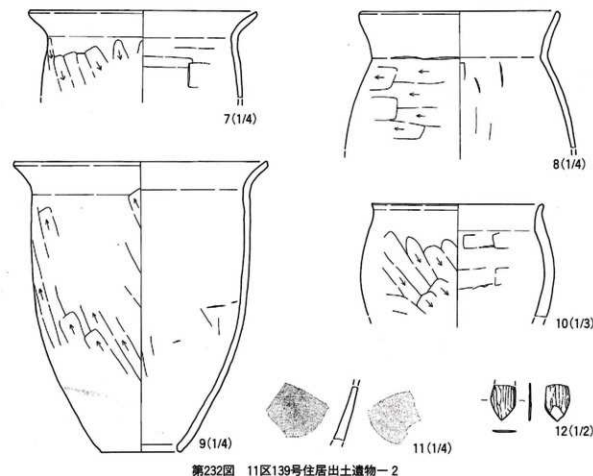
11区139号住居

位置 11区 規模形状 北東部に方形のコーナーが見られ形状は方形と推定される。東西5.60m + a、南北1.30m + a、残存壁高0.25mを測る。主軸方位 東-35° -北 重積 158号住居、79・80号溝に壊される。床面 平坦な面であるが、多少の起伏がある。カマド 住居東側に袖石に使われたみられる角礫があり、灰と焼土が散っている。カマドは東壁にあり、壊されていると考えられる。柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・高坏・埴、須恵器壺・蓋坏、石製模造品剣形 所見 須恵器蓋坏(6)は、縁が短く口縁端部は平坦でやや内傾している。MT15併行期と考えられる。土師器坏に大型化が認められる。



第231図 11区139号住居・出土遺物-1

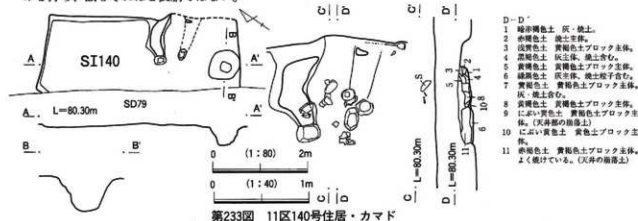
- A-A'
- 1 白い黄褐色土。黄色砂子多く含む。
 - 2 褐色土。小礫・パミス含む。
 - 3 暗褐色土。黄色砂子・ブロック含む。
 - 4 暗褐色土。黄色ブロック含む。
 - 5 暗褐色土。黄色砂子多く含む。
 - 6 暗褐色土。黄色砂子多く含む。
 - 7 褐色土。焼土・黄色砂子含む。



第232図 11区139号住居出土遺物-2

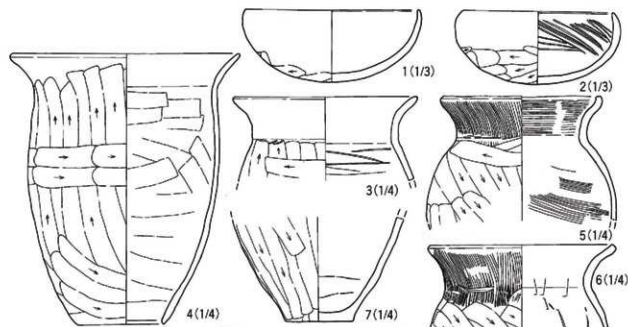
11区140号住居

位置 11区 規模形状 住居大半を79号溝に壊される。方形プランで、南北4.20m、東西1.60m + a、残存壁高0.08mを測る。主軸方位 北-44° -東 重積 185号住居を握り込む。79号溝に壊される。床面 ほぼ平坦である。カマド 東壁中央部よりやや南側に位置する。残りは悪く右袖は袖石の大部分が削平されている。奥行1.10m、焚き口幅は不明である。左袖先端部の袖石は凝灰岩である。燃焼面は床面とほぼ同レベルであった。燃焼部内はよく焼けている。燃焼部中央から自然石が検出された。支脚と考えられる。燃焼部内から土師器壺片が、右袖付近から土師器壺・坏片、被熱痕のある石が出土した。柱穴 不明 貯蔵穴 南東隅よりやや西側に位置する。円形を呈し、長軸0.66m、短軸0.60m、深さ0.40mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏・瓶 所見 5世紀後半 備前 土師器坏は内湾口縁と内斜口縁のみで、蓋模様の坏はない。壺はやや丸みを持ち、瓶もそれほど長胴ではない。



第233図 11区140号住居・カマド

- D-D'
- 1 暗赤褐色土。灰・焼土。
 - 2 暗褐色土。焼土。
 - 3 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。
 - 4 暗褐色土。灰土。焼土含む。
 - 5 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。
 - 6 暗褐色土。灰土。焼土含む。
 - 7 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。
 - 8 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。
 - 9 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。
 - 10 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。
 - 11 暗褐色土。黄褐色土ブロック主部。



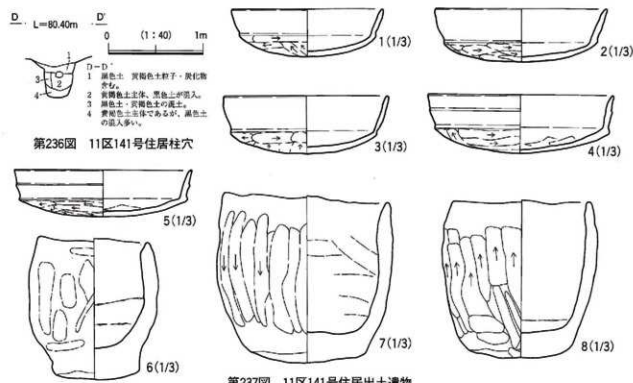
11区141号住居

第234図 11区140号住居出土遺物

位置 11区 規模形状 東西4.10m南北2.70mの長方形を呈する。残存壁高0.28mを測る。主軸方位 東 15° 北 重複 161号住居を掘り込む。床面 平坦面を形成し、貼床が認められる。カマド 南東コーナーに位置する。奥行1.55m、焚き口幅0.35mを測る。袖は住居内に張り出し、燃焼部の多くは住居壁の内側で、一部住居壁を掘り込んで造られている。燃焼面は奥にかけて緩やかに上がっていく。柱穴 カマド北に位置する。住居短辺の中央の位置である。円形を呈し、長軸0.50m、短軸0.46m、深さ0.44mを測る。ただし、これに対応する西側位置には柱穴はない。貯蔵穴 なし その他付属施設 カマド部分を除く壁際から壁周溝を検出した。幅0.15~0.55m、深さ0.04~0.14m程である。遺物 土師器甕・坏 所見 6世紀中頃 土師器坏は口縁に段を持つ、いわゆる有段口縁坏がある。大型化した、また口縁がやや外傾する傾向にある。また、変形をした粗製土器の存在も特徴的である。



第235図 11区141号住居・カマド

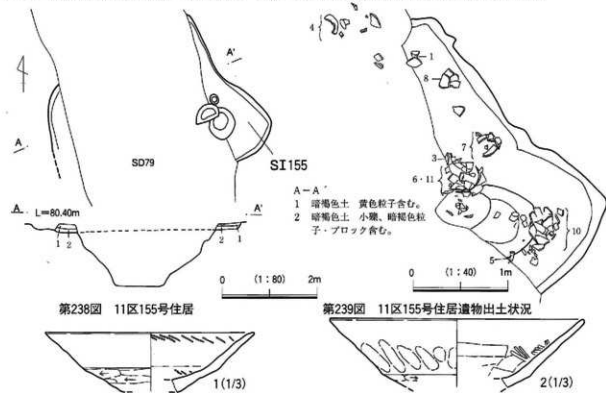


第236図 11区141号住居柱穴

第237図 11区141号住居出土遺物

11区155号住居

位置 11区 規模形状 住居の大部分を溝に壊され、残りは悪い。形状は方形と推定される。東西3.80m南北3.50m+a、残存壁高0.12mを測る。主軸方位 東 25° 北 重複 77号・79号溝に壊される。床面 は平坦である。カマド 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏・高坏・甕、牛角状把手付甕 所見 5世紀後半 備考 土師器の牛角状把手付甕の存在は特筆される。

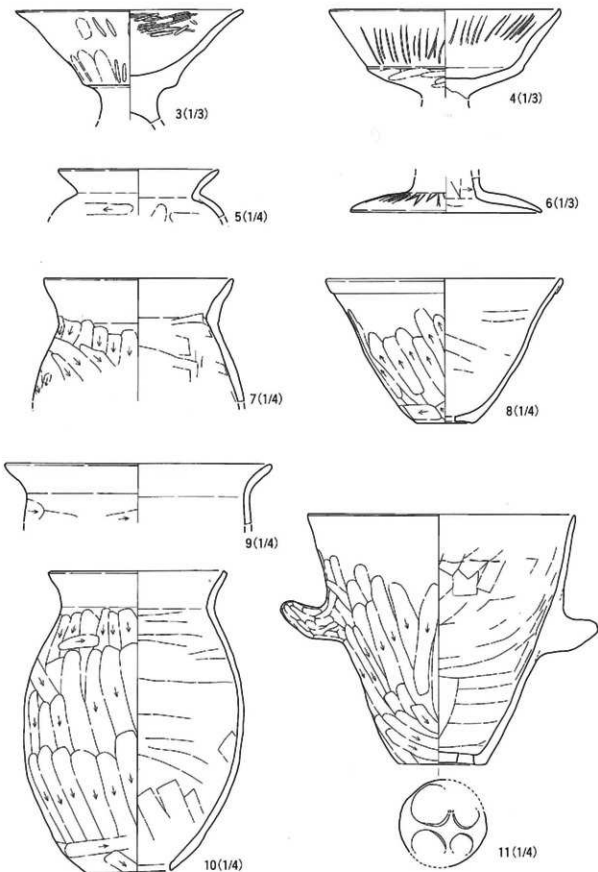


第238図 11区155号住居

第239図 11区155号住居遺物出土状況



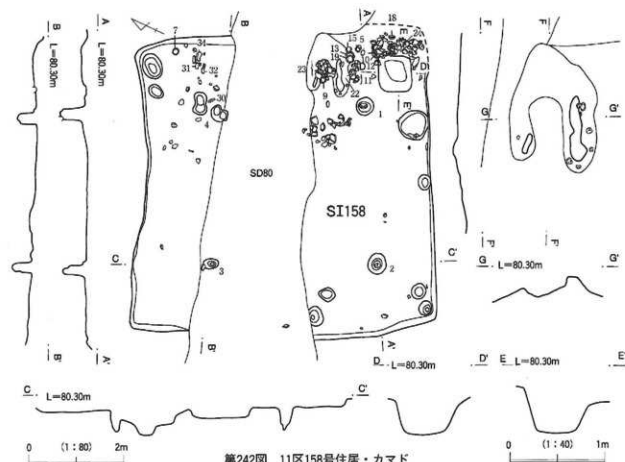
第240図 11区155号住居出土遺物-1



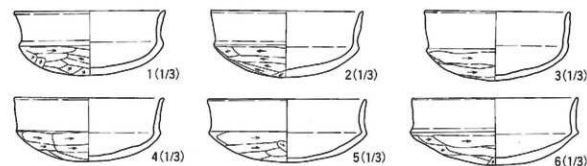
第241図 11区155号住居出土遺物-2

11区158号住居

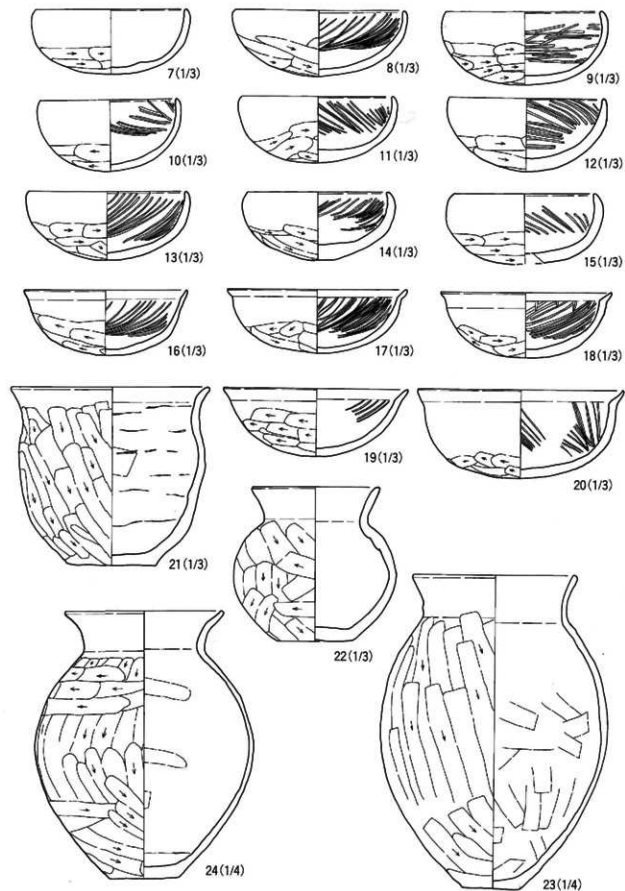
位置 11区 規模形状 ほぼ正方形を呈し、東西6.50m、南北6.10m、残存壁高0.12mを測る。 主軸方位 東-23° 北 重複 133号・139号住居を掘り込み、77号・79号・80号溝に填される。 床面 若干起伏がある。カマド 東壁中央やや南に位置する。カマドの軸が部分的に残っていた。奥行1.27m、焚き口幅0.32mを測る。燃焼面は床面より僅かに掘り窪んでいた。燃焼部内から土師器甕が出土した。 柱穴 4基検出している。柱穴1 径0.38m深さ0.50m 柱穴2 長軸0.44m短軸0.40m深さ0.34m 柱穴3 長軸0.34m短軸0.21m深さ0.46m 柱穴4 長軸0.36m短軸0.32m深さ0.32m柱穴間寸法は、柱穴1～2は3.34m、柱穴2～3は3.50m、柱穴3～4は3.22m、柱穴4～1は3.14mである。 貯蔵穴 南東隅に位置する。方形を呈し、長辺0.78m、短辺0.70m、深さ0.40mを測る。 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・甕・杯・甕、石製模造品銅形 所見 5世紀末備考 内斜口縁環と内湾口縁環にやや大型化した個体がある。口縁の直立する蓋模倣杯が共存する。また、土師器甕や甕に長胴化が認められる。



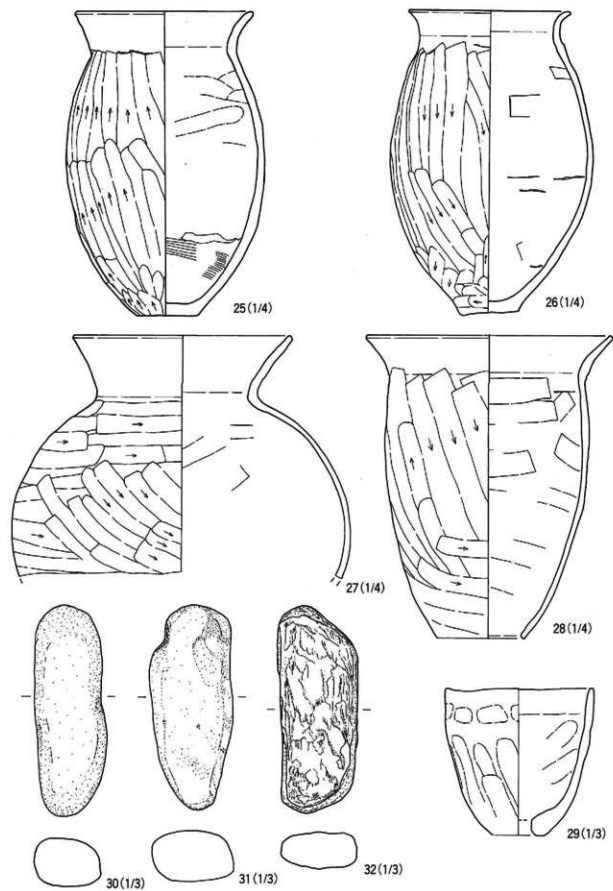
第242図 11区158号住居・カマド



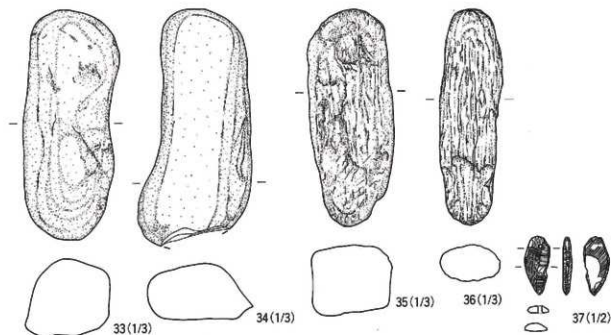
第243図 11区158号住居出土遺物-1



第244図 11区158号住居出土遺物-2



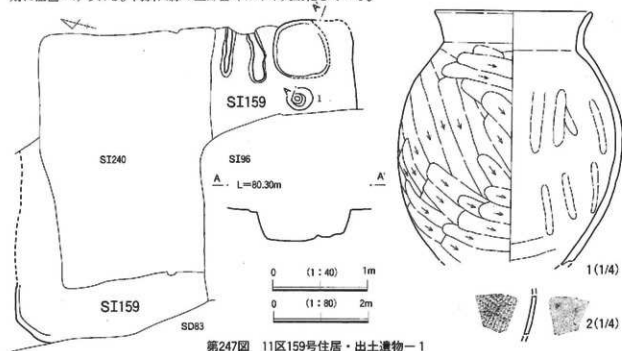
第245図 11区158号住居出土遺物-3



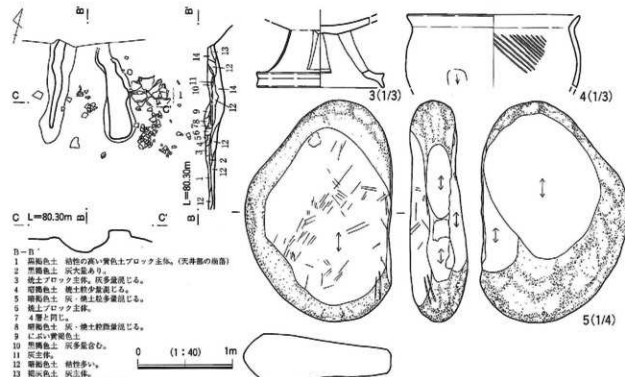
第246図 11区159号住居出土遺物—4

11区159号住居

位置 11区 規模形状 重葎が敷く他の住居にかなり壊されているが長方形プランである。南北7.15m東西6.30m+α、残存壁高0.08mを測る。主軸方位 東-30° 北 重葎 153号住居を掘り込む。96号・240号住居、83号・96号溝に壊される。床面 はほぼ平坦面である。カマド 東壁中央部やや南に位置する。奥行1.0m+α、焚き口幅0.45mを測る。煙道部は壊されている。袖は住居内に張り出し、燃焼面は住居床面より0.10mほど掘り窪めていた。焚き口とその手前には多量の灰が残っていた。燃焼部内から土師器甕・坏片が、右袖右脇から土師器甕・坏片が多量に出土した。柱穴 柱穴1 長軸0.50m短軸0.48m深さ0.46m 貯蔵穴 カマド右脇に位置する。方形を呈し、長辺1.18m、短辺1.16m、深さ0.46mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器甕・坏、須恵器高坏・甕、大型甕石 所見 5世紀末〜6世紀初頭 備考 須恵器高坏(3)はTK47併行期に位置づけられる。内斜口縁の土師器坏はやや大型化している。



第247図 11区159号住居・出土遺物—1

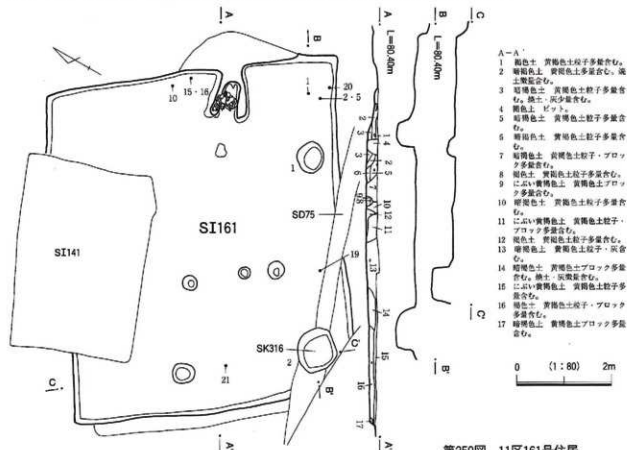


第248図 11区159号住居カマド

第249図 11区159号住居出土遺物—2

11区161号住居

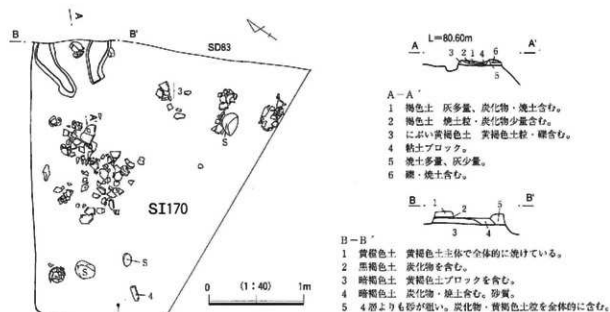
位置 11区 規模形状 東西7.10m、南北6.00mの長方形を呈する。残存壁高0.28mを測る。



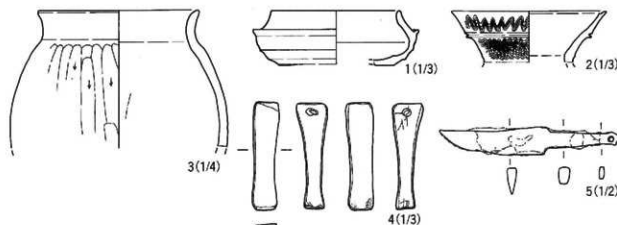
第250図 11区161号住居

11区170号住居

位置 11区 規模形状 東西2.9m+α、南北2.85m+α、残存壁高0.30mを測る。住居の東が溝に壊され、南も他の住居に壊されるが、形状は方形と推定される。主軸方位 東-30° 北 重複 197号住居を掘り込む。10区196号住居・83号溝に壊される。床面 はほぼ平坦で貼床が認められる。カマド 北東コーナーに位置する。カマドの東部分が83号溝に壊される。奥行は0.50m+α、焚き口幅0.20mである。燃焼部中央に土師器の坏が伏せられていた。支脚の可能性が高い。柱穴 3基検出している。柱穴1 径0.28m深さ0.12m 柱穴2 長軸0.52m短軸0.50m深さ0.11m 柱穴3 長軸0.24m短軸0.20m深さ0.21m 柱穴間寸法は、柱穴1～2は1.50m、柱穴2～3は2.10mである。貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺、須恵器ハソウ・坏身、鉄製刀子 所見 須恵器ハソウは頸部がやや太い個体である。また、坏身は立ち上がり部径10.2cmと小さく端部に丸みを持つ。両者ともTK47併行期と考えられる。



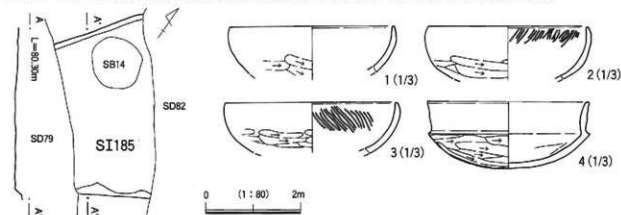
第254図 11区170号住居遺物出土状況



第255図 11区170号住居出土遺物

11区185号住居

位置 11区 規模形状 溝に住居の大半を壊されていた。南北3.70m東西1.80m+α、残存壁高0.18mを測る。形状は不明である。主軸方位 北-25° 西 重複 79号・82号溝に壊される。床面 はほぼ平坦である。カマド 不明 柱穴 主柱穴1基検出 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏 所見 5世紀末 備考 土師器坏は内湾口縁と須恵器蓋模倣坏がある。内湾口縁の坏は、粗雑な暗文である。

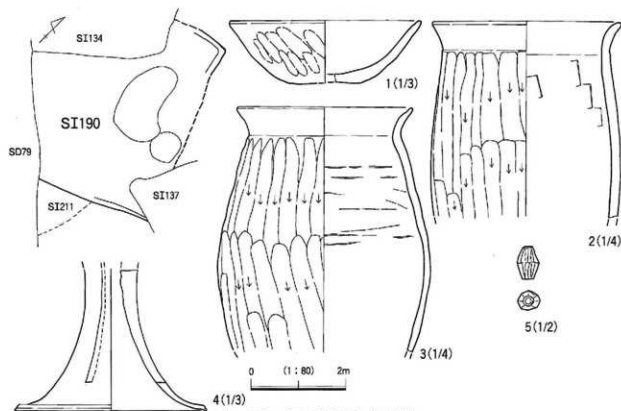


第256図 11区185号住居

第257図 11区185号住居・出土遺物

11区190号住居

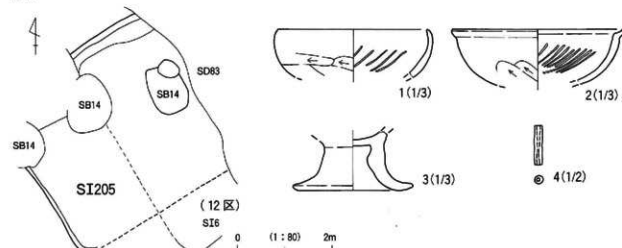
位置 11区 規模形状 重複が激しく残りの悪い住居であった。形状は方形と推定される。長辺4.10m、短辺3.70m、残存壁高0.16mを測る。主軸方位 北-15° 西 重複 211号住居を掘り込む。134号・137号住居、79号溝に壊される。床面 やや起伏がある。カマド 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器壺・坏、須恵器高坏、蛇紋岩製玉 所見 6世紀中頃 備考 須恵器高坏 (10) は、長脚で長方形の透かしが3方向に入る。土師器壺は長脚でややぶくれである。



第258図 11区190号住居・出土遺物

11区205号住居

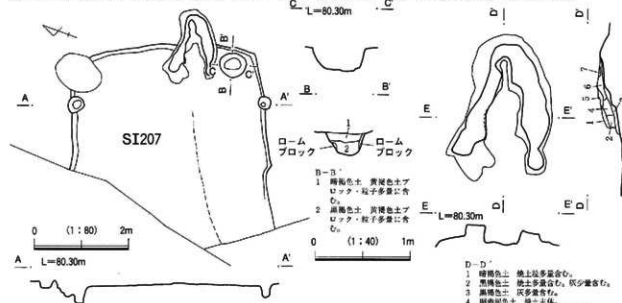
位置 11区 規模形状 南北推定3.90m、東西3.80m+α、かなり壊されているが方形プランが考えられる。主軸方位 北-35°-西 重複 12区6号・17号住居、14号掘立柱建物の柱穴、83号溝に横される。床面 本住居の床面は殆どなく不明な部分が多い。カマド 不明、83号溝に横されているが、東壁にあった可能性が高い。柱穴 不明 貯蔵穴 不明 その他付属施設 なし 遺物 土師器杯・高杯、蛇紋岩製管玉 所見 5世紀末



第259図 11区205号住居・出土遺物

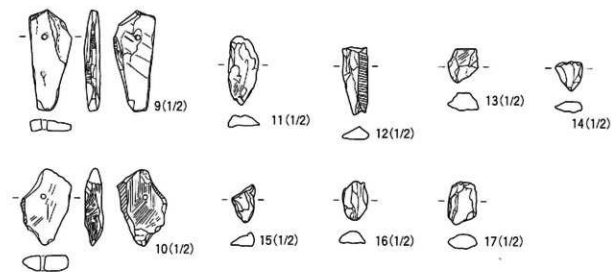
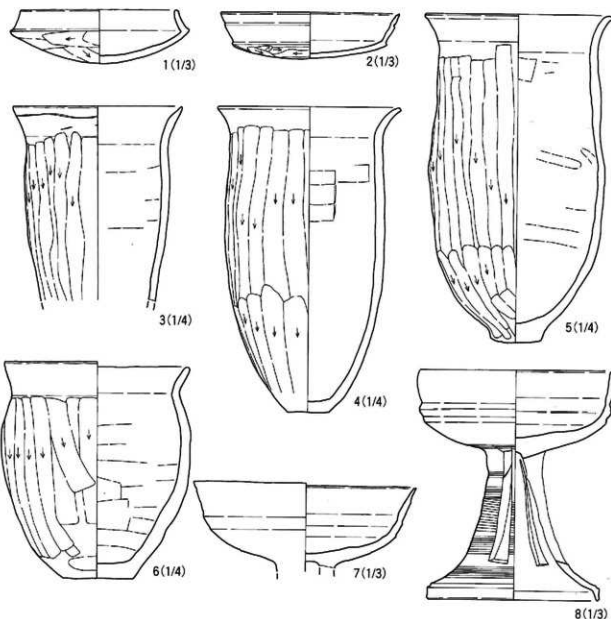
11区207号住居

位置 11区 規模形状 南北4.30m東西4.10m+α、残存壁高0.15mを測る。西壁が調査区外のため未調査である。形状は方形である。主軸方位 東-20°-北 重複 134号住居を掘り込む。79号溝、12区5号土坑に横される。床面 中央がやや高く全体では、ほぼ平坦である。カマド 東壁中央やや南に位置する。奥行1.00m、焚き口幅0.35m、煙道部長0.35mを測る。炉は住居内に張り出し、カマドの一部は住居壁を掘り込んで造られている。煙道部の内壁左側はよく焼けて焼土化していた。柱穴 南北の壁際に2基の柱穴を検出した。貯蔵穴 南東隅に位置する。円形を呈し、径0.50m、深さ0.25mを測る。その他付属施設 なし 遺物 土師器要・杯、須恵器高杯、石製模造品剣形、滑石片 所見 須恵器高杯(8)はTK10併行期と考えられる。



第260図 11区207号住居・カマド

第1節 竪穴住居



第261図 11区207号住居出土遺物